

平成 23 年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）

軽度の認知症予防のためのリハビリテーション
の提供方法に関する調査研究事業 報告書

平成24年3月

公益社団法人 全国老人保健施設協会

はじめに

昭和62年にモデル7施設からスタートした老人保健施設も24年を経過した現在、全国で3,700を超えるまでに整備されてきた。老人保健施設では、制度発足当初から、介護を必要とする高齢者の自立を支援し、家庭への復帰を目指すために、医師による医学的管理の下、看護・介護といったケアはもとより、作業療法士や理学療法士等によるリハビリテーション、また、栄養管理・食事・入浴などの日常サービスまで併せて提供する施設として、地域を支える役割を果たしてきた。

その間、平成12年4月には、介護保険制度がスタートして、要介護状態となっても尊厳を維持しながら、高齢者一人ひとりが住み慣れた地域において、その有する能力を最大限活用しながら、自立した日常生活を営むことができるような体制づくりが進められた。また、近年では、全国各地域において、それぞれの地域特性を踏まえた形で地域包括ケアシステムの構築が進んでおり、より一層、地域の高齢者が抱える多様なニーズに的確に対応していけるような取り組みが展開されている。

こうした動きが目指すものは、当初から老人保健施設が運営の理念として掲げてきたこと、老人保健施設の活動の方向性と全く同じではないだろうか。そうであるならば、医療・リハビリテーション・看護・介護・在宅生活支援等といった多様な役割・機能を果たしている老人保健施設が、地域における関係各機関と協力・連携しながら、地域包括ケアシステムの中核・地域の高齢者ケアの牽引役となっていくことがますます求められていると言えよう。

上記のように、老人保健施設が地域社会で求められる役割・機能を適切に果たしていくためには、地域社会が抱えている多様なニーズに対応した調査研究を行い、現実的かつ具体的な提言を絶えず行っていく努力が必要不可欠である。

全老健では平成23年度老人保健推進費等国庫補助事業において次の6つの研究事業に取り組んだ。ここに、各研究事業の報告書（6冊分）をとりまとめたので報告する。

1. 軽度の認知症予防のためのリハビリテーションの提供方法に関する調査研究事業
2. 介護老人保健施設における入所・短期入所リハビリテーションがもたらす在宅復帰・在宅生活支援に関する調査研究事業
3. 介護老人保健施設が持つ多機能の一環としての看取りのあり方に関する調査研究事業
4. 介護人材養成（実務者研修）のための研修の読替えと実務者研修および認定介護福祉士（仮称）に至る過程の認証・顕彰に関する試行的事業
5. 介護老人保健施設における適切なケアマネジメント方式（R4システム）の導入の効果と専門職（看護・リハビリテーション）アセスメントに関する調査研究事業
6. 生活機能衰退のプロセス解明と口腔・嚥下およびコミュニケーション障害への適切な介入方法構築のための調査研究事業

これらの研究成果が、老人保健施設の関係者のみならず、高齢者の生活を支える全ての方々の取り組みの参考となり、高齢者の尊厳の保持と質の高いサービスの提供につながることを願うものである。

平成24年3月

公益社団法人全国老人保健施設協会 会長 山田 和彦

目 次

調査研究の目的	1
調査研究のフロー	2
研究班名簿	3
1. 実態調査の概要	4
2. 軽度認知症高齢者の認知症短期集中リハビリテーションの効果 に関する解析結果	7
3. 解析結果のまとめ	44
4. 本年度調査のローデータ	45
まとめと結論	51

参考 調査票等

調査研究の目的



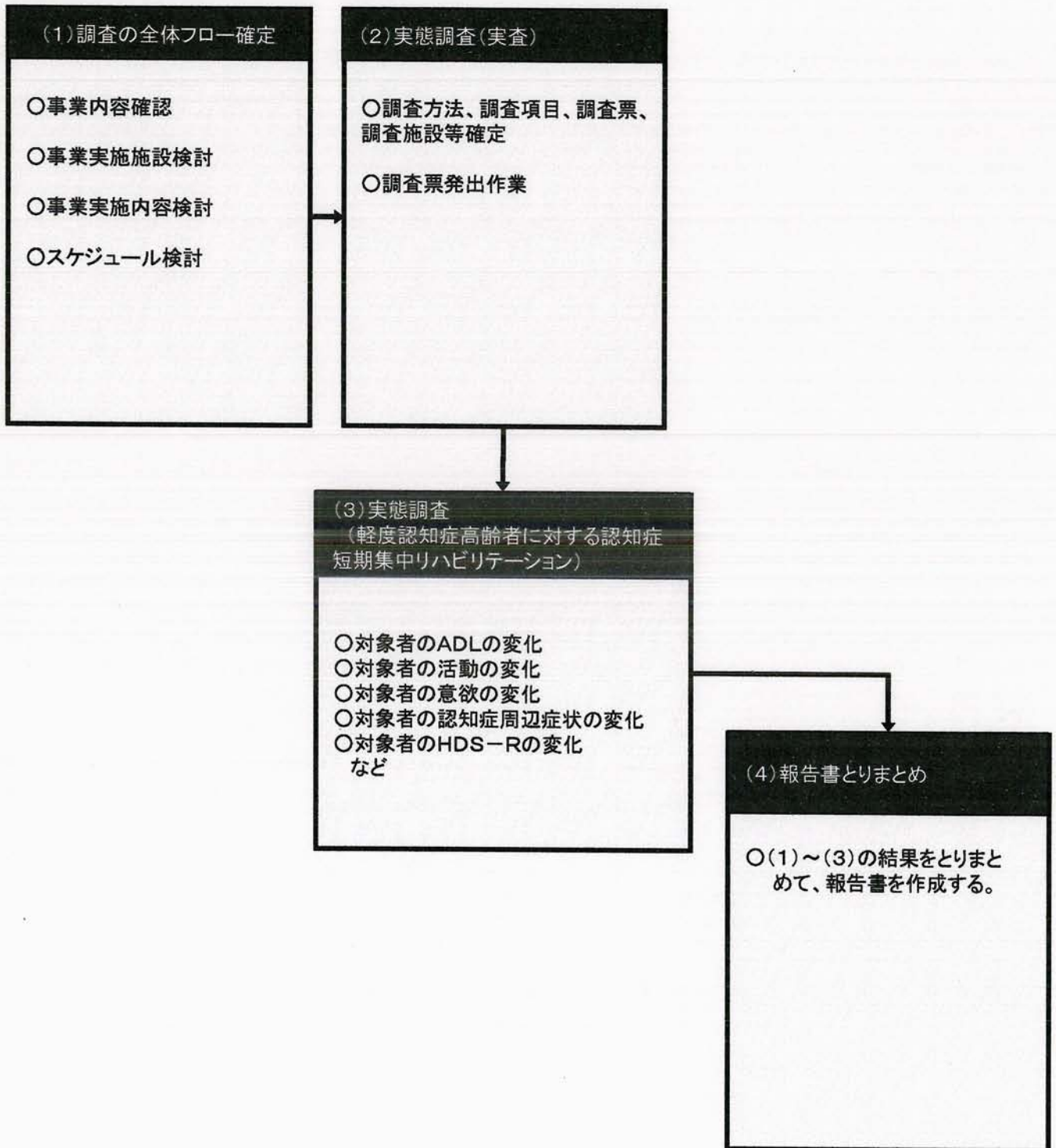
本調査は、平成18～20年度「認知症短期集中リハビリテーション実態調査」および平成21年度「認知症高齢者における維持期リハビリテーション実態調査」、平成22年度「認知症高齢者の継続リハビリテーション実態調査」の継続として、実施するものである。

平成21年度介護報酬改定において、短期集中リハビリテーション、認知症（短期集中）リハビリテーションの評価が大幅に見直された。特に認知症短期集中リハビリテーションにおいては、その対象者の拡大や新たに介護療養型医療施設や通所リハビリテーションにも加算が新設されるなど、利用者の変化を早期に把握し、集中的なりハビリテーションにより改善を図る体制が明確になっている。

そこで、本年度は、在宅等における軽度の認知症の高齢者を対象に認知症短期集中リハビリテーションを提供し、その効果を検証することとした。

調査研究のフロー

調査研究は、以下のようなフローに基づいて行った。



研究班名簿

平成23年度軽度の認知症予防のためのリハビリテーションの提供方法に関する調査研究事業班

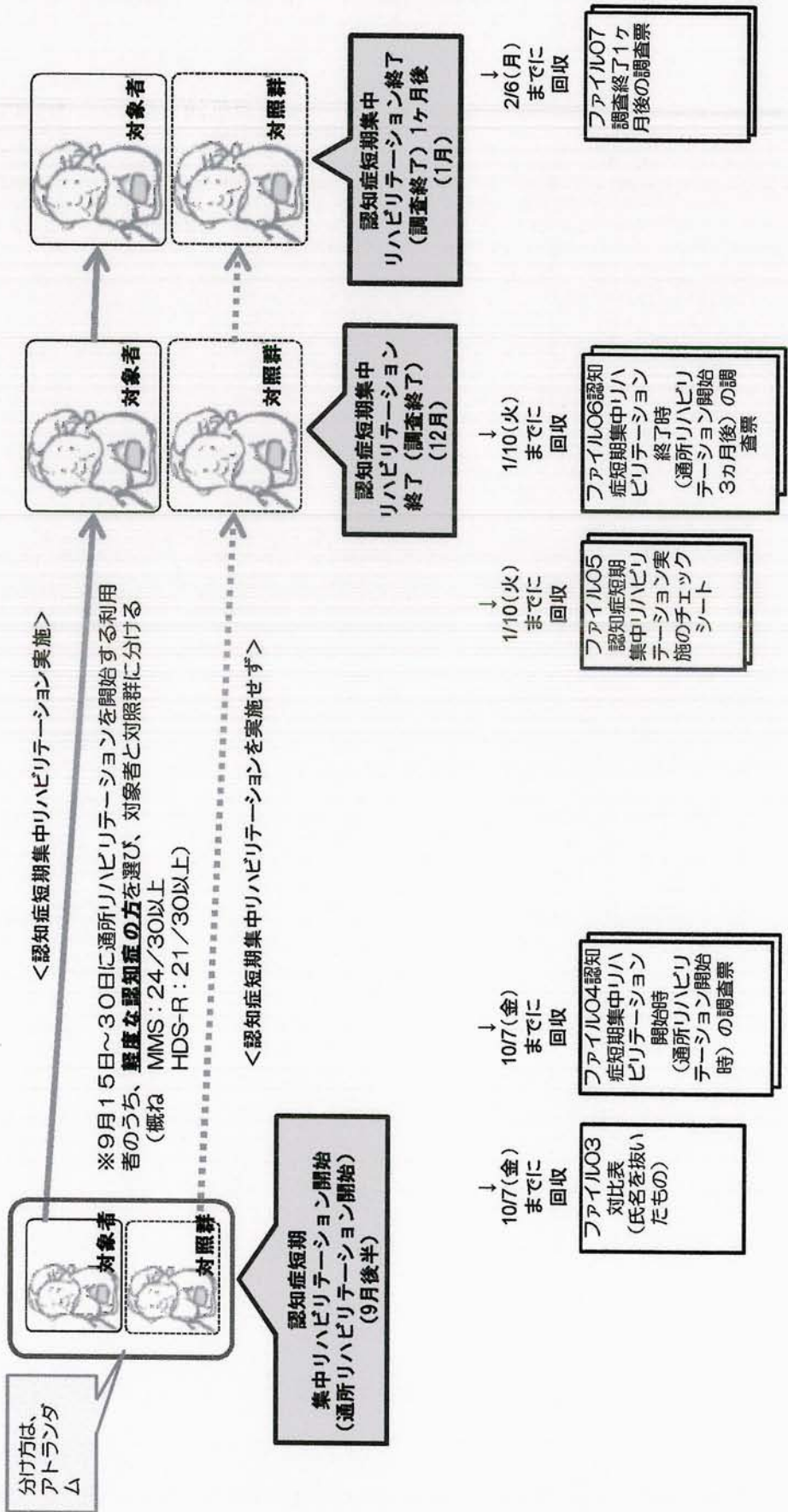
	氏名	所属	役職
班長	鳥羽 研二	独立行政法人国立長寿医療研究センター	病院長
班員	池田 学	熊本大学大学院 生命科学研究部	教授
	稲庭 千弥子	介護老人保健施設ニコニコ苑	理事長
	浦上 克哉	鳥取大学医学部保健学科生体制御学	教授
	江澤 和彦	介護老人保健施設べあれんと	理事長
	遠藤 英俊	独立行政法人国立長寿医療研究センター	内科総合診療部長
	高橋 明	介護老人保健施設みあ・かーさ	理事長
	中村 祐	香川大学医学部附属病院精神神経科	教授
	平井 基陽	介護老人保健施設鴻池荘	理事長


1. 実態調査の概要

実態調査は以下のような手順（手順1～手順4）で実施した。

平成23年度「軽度の認知症予防のためのリハビリテーションの提供方法に関する調査」の全体イメージ

※過去の調査協力施設を中核とする100施設に協力を依頼する





実態調査でデータを取得する評価指標については、平成18～20年度「認知症短期集中リハビリテーション実態調査」平成21年度「認知症高齢者における維持期のリハビリテーションの効果的かつ適切な提供方法に関する調査研究事業」平成22年度「認知症高齢者の継続リハビリテーション実態調査」を踏襲して、以下の各項目とした。

- HDS-R、MMS・・・認知機能
- DBD・・・周辺症状
- Vitality Index（意欲の指標）・・・意欲
- NMスケール・・・記憶、見当識、会話
- ADL（Barthel Index）
- 活動 5項目
- MMS

なお、認知症短期集中リハビリテーション対象者については、3ヶ月の調査期間中にどのようなリハビリテーション内容を実施したか下記の項目を複数選択で回答してもらった。

- 見当識訓練
- 学習（訓練）療法
- 記憶の訓練
- 作業療法
- 運動療法
- 回想法

調査参加施設は、平成18～20年度「認知症短期集中リハビリテーション実態調査」事業、平成21年度「認知症高齢者における維持期のリハビリテーションの効果的かつ適切な提供方法に関する調査研究」および平成22年度「認知症高齢者の継続リハビリテーション実態調査」事業に協力いただいた施設を中心に、手挙げ方式で参加を了承した11施設となった。

調査期間は平成23年9月～平成24年1月末までの間とした。調査票は、平成18～22年度で使用した調査票を若干修正したものを使用した。認知症短期集中リハビリテーションの対象者及び対照群の設定は、各施設に依頼して無作為に設定して頂いた。

最終的には、11施設から有効回答票を得た。

<参考1>

本調査は、（公社）全国老人保健施設協会の学術倫理委員会における審査を経て実施された。学術倫理委員会からは、「全ての被験者に、以下の説明を行うこと」という条件が付され、その条件に則して調査が遂行された。

被験者への説明事項（学術倫理委員会の指示により追加された項目）

「認知症短期集中リハビリテーション実施フェーズでは、認知症短期集中リハビリテーションを実施する対象者と、そうしたリハビリテーションを実施しない対照群に分かれます。

現時点では、どなたが対象者になり、どなたが対照群になるか全く分かりません。後日、無作為に割り付けを行います。

認知症短期集中リハビリテーションを実施する対象者になりますと、実施しない対照群より多少利用料が高くなります。

実施しない対照群になった場合、ご希望により4ヶ月後にリハビリテーションを受けることが可能です。」

<参考2>

有意差の検定については、特に断りのない場合、「対応する2群に関するt検定」を用いている。

2. 軽度認知症高齢者の認知症短期集中リハビリテーションの効果に関する解析結果

(1) 解析対象者数

通所リハビリテーション実施者のうち、認知症短期集中リハビリテーションを実施する層（対象者）と実施しない層（対照群）に分けて、3ヶ月の変化を見た。対象者は17名、対照群は12名であった。なお、対象者と対照群の振り分けは、各施設に依頼して無作為に行って頂いた。

(2) 解析対象者の調査開始時の状態

解析対象者の調査対象時の指標は表の通りである。各項目において、対象者（認知症短期集中リハビリテーション実施者）と対照群に差は見られなかった。

	対象者(認知症短期 集中リハ実施者) (n=17)	対照群 (n=12)	有意差p
年齢	78.3	82.1	ns.
性別(男:女)	8:8	6:5	ns.
HDS-R	20.0	24.2	ns.
ADL	24.5	21.8	ns.
活動	12.1	11.8	ns.
意欲	9.1	9.4	ns.
DBD	1.4	1.1	ns.
NMスケール	40.3	41.5	ns.
MMS	22.1	24.3	ns.

※有意差検定は、対象者(認知症短期集中リハ実施者)と対照群についてt検定を行った結果である。

(3) 初回データと最終データの変化

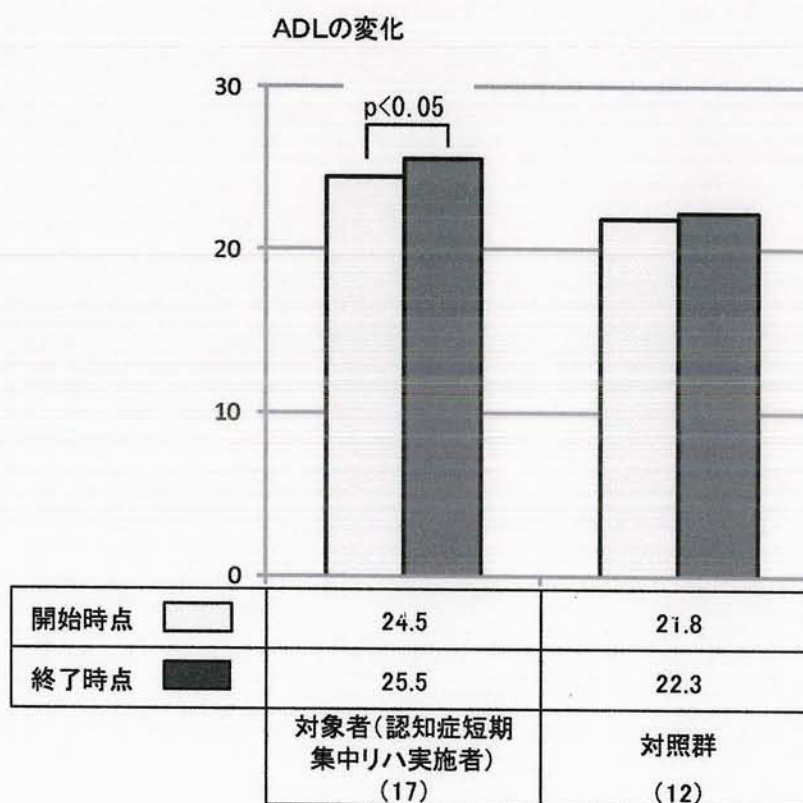
以下、今回の調査で得られた解析結果を紹介する。これらは認知症短期集中リハビリテーション開始時点における初回データと3ヶ月後の終了時点で得られたデータを比較・解析したものである。

①ADL

ADLは、基本的ADLとしてBarthel Indexの10項目をスコア化して解析した。
(下表参照)

	自立	見守り	一部介助	全介助
①トイレへの移動・行為	3	2	1	0
②車イスへの移動	3	2	1	0
③階段昇降	3	2	1	0
④歩行	3	2	1	0
⑤食事	3	2	1	0
⑥排泄(尿)	3	2	1	0
⑦排泄(便)	3	2	1	0
⑧整容	3	2	1	0
⑨更衣	3	2	1	0
⑩入浴	3	2	1	0

解析の結果、対象者（認知症短期集中リハビリテーション実施者）のADLは向上した。対照群は有意な差が見られなかった。



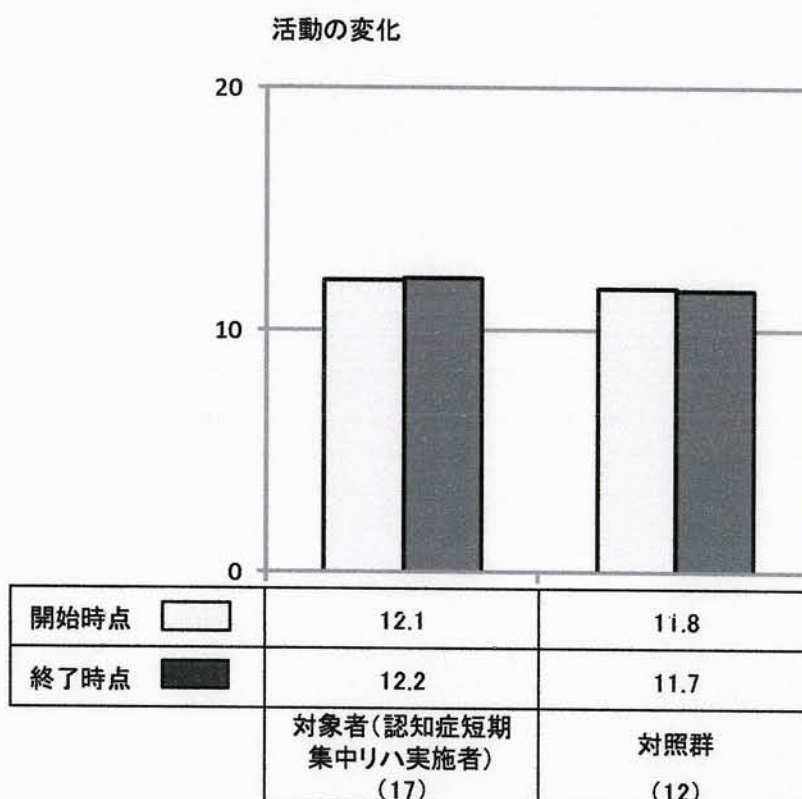
②活動

活動は、「職員との会話」「入所者との会話」「身の回りの片づけ」「レクリエーション」「外出」の5項目をスコア化して解析した。

(下表参照)

	自立	見守り	一部介助	全介助
①職員との会話	3	2	1	0
②入所者との会話	3	2	1	0
③身の回りの片づけ	3	2	1	0
④レクリエーション	3	2	1	0
⑤外出	3	2	1	0

解析の結果、対象者（認知症短期集中リハビリテーション実施者）、対照群ともに有意な差が見られなかった。



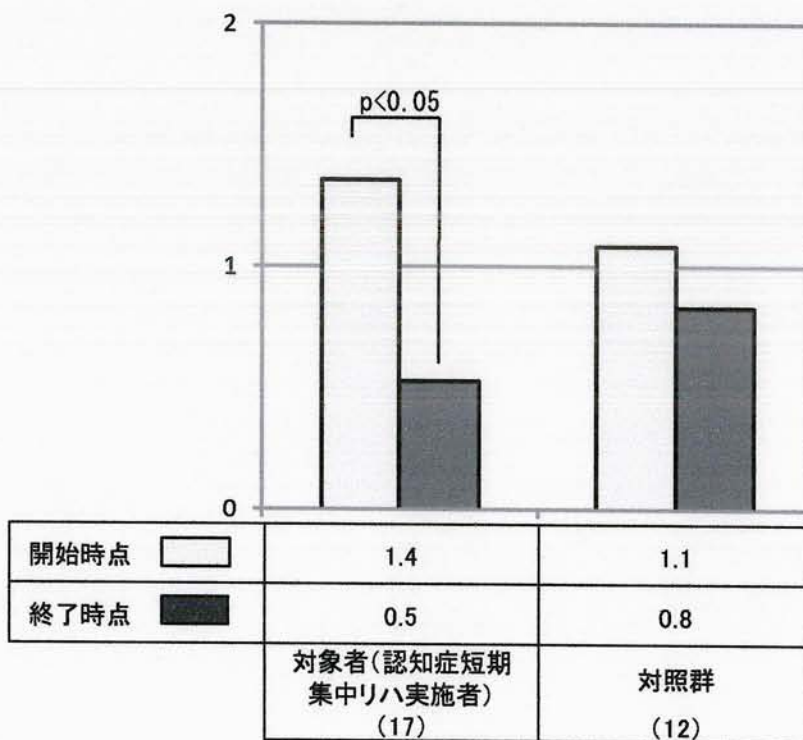
③周辺症状

周辺症状は、DBD（認知症行動障害尺度）の13項目をスコア化して解析した。
（下表参照）

	常に	よくある	ときに	ない
①物をなくす、置き場所を間違える、物を隠す	3	2	1	0
②昼間寝てばかりいる	3	2	1	0
③介護拒否	3	2	1	0
④同じことを何度も訊く	3	2	1	0
⑤暴言	3	2	1	0
⑥言いがかりをつける	3	2	1	0
⑦場違いな、季節外れの服装をする	3	2	1	0
⑧物をため込む	3	2	1	0
⑨日常的な物事に関心を示さない	3	2	1	0
⑩昼夜逆転	3	2	1	0
⑪同じ動作をいつまでも繰り返す	3	2	1	0
⑫物を散らかす	3	2	1	0
⑬徘徊	3	2	1	0

解析の結果、対象者（認知症短期集中リハビリテーション実施者）は改善が認められた。対照群は有意な差が見られなかった。

周辺症状の変化



周辺症状の下位項目それぞれについて改善比較を行ったところ、統計的に有意な変化は認められなかった。

軽度認知症リハ実施前後における
周辺症状(DBD)下位項目の改善比較
(Wilcoxon 順位差検定)

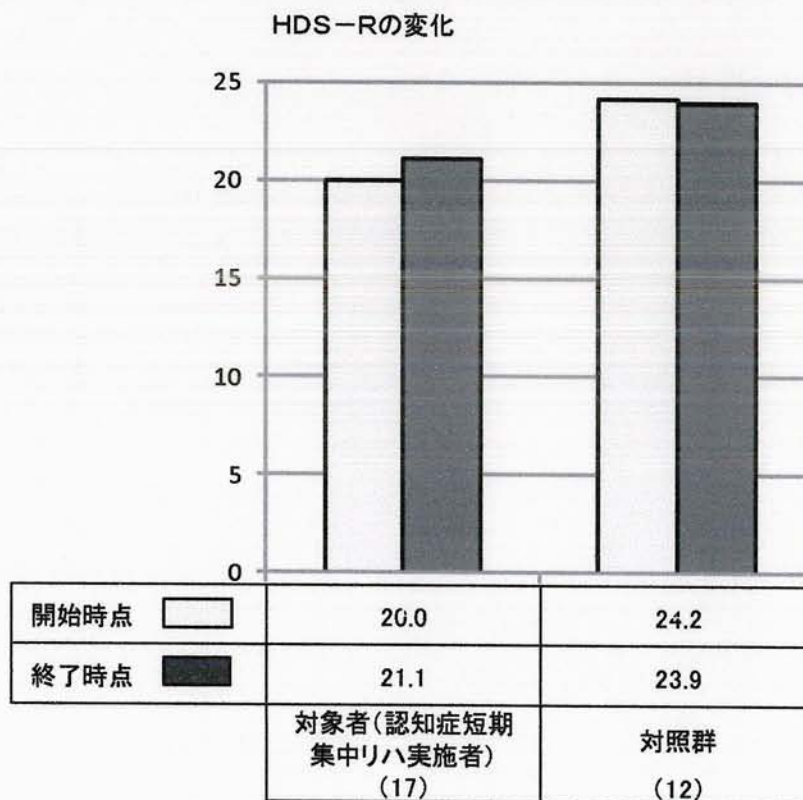
	対照群				対象者(認知症短期集中リハ実施者)			
	改善	不変	悪化	p	改善	不変	悪化	p
物をなくす	0	11	1	ns	1	16	0	ns
昼間寝てばかりいる	0	12	0	ns	2	15	0	ns
介護拒否	1	11	0	ns	0	17	0	ns
同じことを何度も訊く	0	11	1	ns	3	14	0	ns
暴言	0	12	0	ns	0	17	0	ns
言いがかりをつける	0	12	0	ns	1	16	0	ns
場違いな服装をする	0	12	0	ns	0	17	0	ns
物をため込む	0	12	0	ns	0	17	0	ns
日常的な物事に関心を示さない	1	11	0	ns	3	14	0	ns
昼夜逆転	0	12	0	ns	0	17	0	ns
同じ動作をいつまでも繰り返す	0	12	0	ns	0	17	0	ns
物を散らかす	0	12	0	ns	1	16	0	ns
徘徊	1	11	0	ns	0	17	0	ns

④認知機能

認知機能は、HDS-R（改訂長谷川式簡易知能評価スケール）のスコアで解析した。
（下表参照）

改訂長谷川式スケール			(月 日)
1. 年齢	お歳はいくつですか？(2年までの誤差は正解)		0 1
2. 日時の見当識	今日は何年の何月何日ですか？何曜日ですか？(年、月、日、曜日が正解でそれぞれ1点づつ)	年	0 1
		月	0 1
		日	0 1
		曜日	0 1
3. 場所の見当識	私たちが今いるところはどこですか？(自発的にできれば2点 5秒おいて、家ですか？ 病院ですか？ 施設ですか？の中から正しい選択をすれば1点)		0 1 2
4. 3つの言葉の記銘	これから言う3つの言葉を言ってみて下さい。あとでまた聞きますのでよく覚えておいてください。 (以下の系列のいずれか1つで、採用した系列に○印をつけておく) 1:a) 桜 b) 猫 c) 電車 2:a) 梅 b) 犬 c) 自転車		0 1 0 1 0 1
5. 計算	100から7を順番に引いてください。 (「100引く7は？ それからまた7を引くと？」と質問する。最初の答えが不正解の場合は打ち切る)	(93) (86)	0 1 0 1
6. 数字の逆唱	私がこれから言う数字を逆から言ってみて下さい。 (6-8-2, 3-5-2-9を逆に言ってもらう。3桁逆唱に失敗したら打ち切る)	2-8-6 9-2-5-3	0 1 0 1
7. 遅延再生	先ほど覚えてもらった言葉をもう一度言ってみて下さい。 (自発的に回答があれば各2点。 もし回答がない場合以下のヒントを与え、正解であれば1点) a) 植物 b) 動物 c) 乗り物		a: 0 1 2 b: 0 1 2 c: 0 1 2
8. 物品記銘	これから5つの品物を見せます。それを隠しますので何があったか言ってみて下さい。(時計、鍵、タバコ、ペン、硬貨など必ず相互に無関係なもの)		0 1 2 3 4 5
9. 言葉の流暢性	知っている野菜の名前をできるだけ多く言ってみて下さい。 (答えた野菜の名前を右欄に記入する。途中で詰まり、約10秒間待っても出ない場合にはそこで打ち切る) 0~5=0点、6=1点、7=2点、8=3点、9=4点、10=5点		0 1 2 3 4 5
計			

解析の結果、対象者（認知症短期集中リハビリテーション実施者）、対照群ともに有意な差が見られなかった。

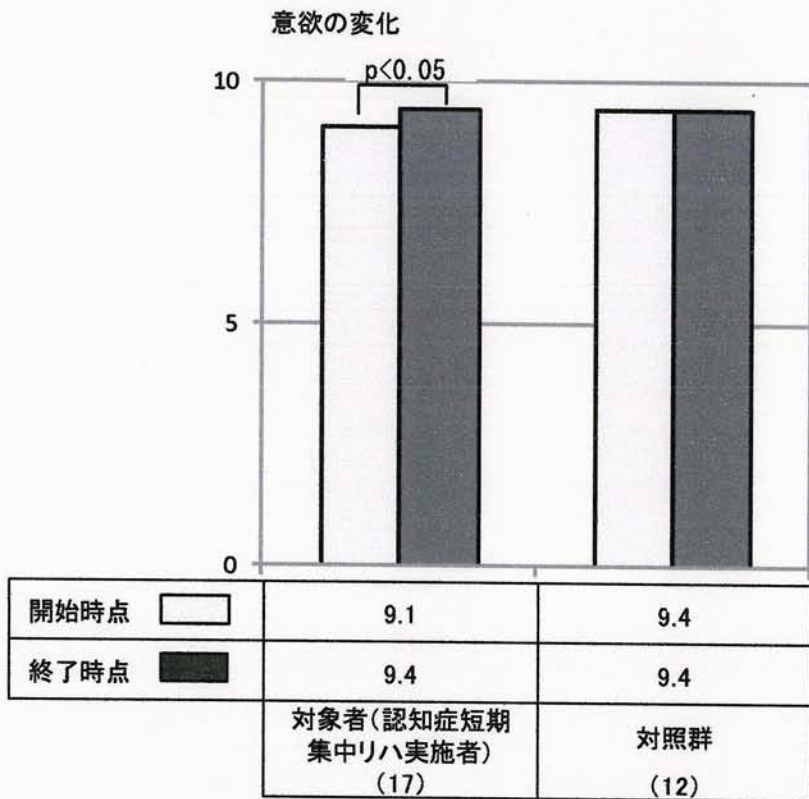


⑤意欲

意欲は、Vitality Indexの5項目をスコア化して解析した。
 (下表参照)

	自発的	促し	無関心
①起床	2	1	0
②挨拶	2	1	0
③食事	2	1	0
④排泄	2	1	0
⑤リハビリテーション、 レクリエーション	2	1	0

解析の結果、対象者（認知症短期集中リハビリテーション実施者）は改善が認められた。対照群は有意な差が見られなかった。



⑥臨床的認知症重症度

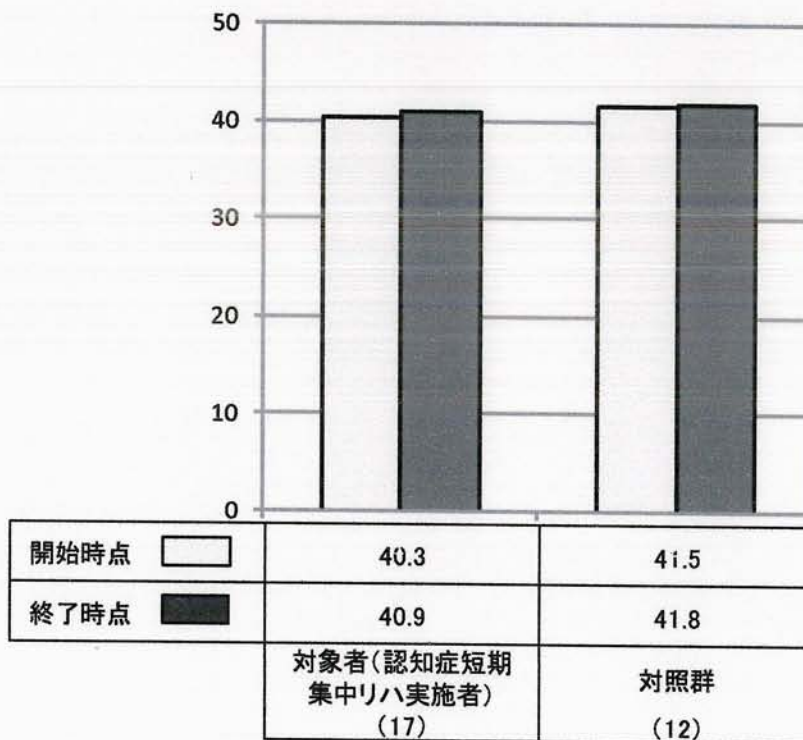
臨床的認知症重症度は、NMスケールをスコア化して解析した。

(下表参照)

NMスケール	0点	1点	3点	5点	7点	9点	10点	(月日)
1. 家事・身辺整理	不能	殆ど不能 ・手の届く範囲の物は取れる	ごく簡単な家事、整理も不完全 ・おしぼりを渡せば顔を拭くことは出来る	簡単な買い物も不確か、ごく簡単な家事、整理のみ ・声がけにて、ペット周辺の整理ができる	簡単な買い物可能 留守番、複雑な家事、整理は困難 ・食器が洗える ・エレベーターの操作が一人で可能	やや不確かだが買い物、留守番家事などを一応まかせられる ・部屋のそうじ、自分の衣類の整理ができる		
2. 関心・意欲・交流	無関心、全く何もしない	周囲に多少関心あり ぼんやりと無為に過ごすことが多い	自らは何もしないが指示されれば簡単なことはしようとする ・手渡せば雑誌のグラビア等を見る	習慣的なことはある程度自らする、気が向けば人に話しかける ・話しかけられれば話がはずむ ・声がけにて行事に参加する	運動、家事、仕事、趣味など気が向けばする 必要なことは自ら話しかける	やや積極性の低下がみられるがほぼ正常 ・周囲の人と雑談ができる ・趣味を持っている ・家族や同室者の行動を知っている		
3. 会話	呼びかけに無反応	呼びかけに一応反応するが、自ら話すことはない	ごく簡単な会話のみ可能 辻つまの合わないことが多い ・有難う、ごちそうさま、おはよう等が言える	簡単な会話は可能であるが、辻つまが合わないことがある	話し方はなめらかではないが、簡単な会話は通じる ・相手の話が理解できる	日常会話はほぼ正常、複雑な会話がやや困難	正常	
4. 記銘・記憶	不能	新しいことは全く覚えられない 古い記憶が稀にある ・名前が言える	最近の記憶は殆どない、古い記憶が多少残存 生年月日不確か 出生地を覚えていない	最近の出来事の記憶困難、古い記憶の部分欠落 ・生年月日正答	最近の出来事をよく忘れる、古い記憶はほぼ正常 ・物をしまい忘れて騒ぐ ・服薬の自己管理が難しい	最近の出来事をときどき忘れる ・一人で受診できるが診察日を時に忘れる		
5. 見当識	全くなし	殆どなし 人物の弁別困難 ・男女の区別は出来る	失見当識著明 家族と他人は区別出来るが誰であるかわからない ・自分の年齢をかけ離れた歳で答える	失見当がかなりあり(日時、年齢場所など不確か 道に迷う) ・看護婦、医者、寮母の見分けが出来る	ときどき場所を間違えることあり ・目的の場所へ行こうとするが時に迷う	ときどき日時を間違えることあり		
計								

解析の結果、対象者（認知症短期集中リハビリテーション実施者）、対照群ともにNMスケールの変化は認められなかった。

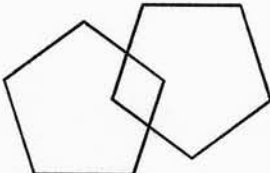
NMスケールの変化



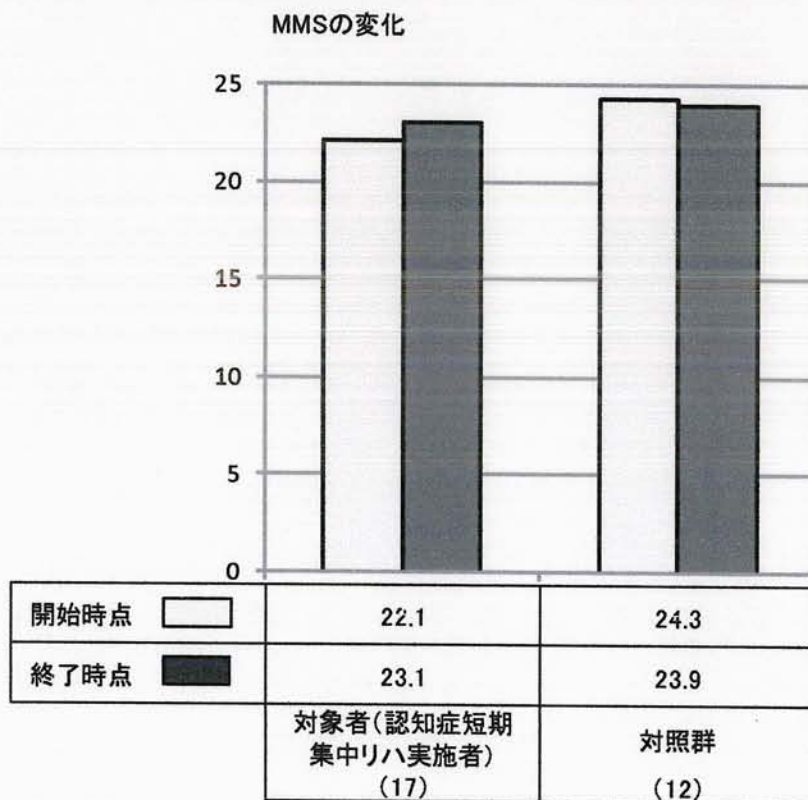
⑦MMS

MMSは下記の11項目をスコア化して解析した。

(下表参照)

MMS (Mini-Mental State)		点数
1 見当識(5点)	今年は何年ですか 今日は何月ですか 今日は何日ですか 今の季節は何ですか 今日は何曜日ですか	
2 見当識(5点)	ここは何県ですか ここは何市ですか この施設名は何ですか ここは何階ですか ここは何地方ですか	
3 記名(3点)	ゆっくりと、互いに関連のない3語、たとえば「みかん、電車、サル」といってきかせ、直後にその通りに繰り返して言えれば3点とします。その単語を覚えておくようにいいます。	
4 計算(5点)	100から順々に、7を引くことを5回繰り返させる (93 86 79 72 65)	
5 想起(3点)	約5分たってから、「さっきいった三つの言葉を思い出して教えてください」と尋ねます。正しく3つ思い出せれば、3点とします。	
6 命名(2点)	時計を見せて、これは何ですかと聞く 鉛筆を見せて、これは何ですかと聞く	
7 復唱(1点)	「ちりもつもれば、やまとなる」をゆっくりいって、同じように繰り返すように言います。	
8 三段階口頭命令(3点)	紙切れを机の上に並べておいてから、ゆっくり指示します 「右手でこの紙を取ってください」 「それを半分に折りたたんでください」 「机の上に置いてください」	
9 書字命令(1点)	「目を閉じてください」とかいてある紙を見せて、その通りを動作でやるかどうかをみます。	
10 文章(1点)	なにか文章を書いてくださいと指示します。	
11 図形(1点)	下の図を、手本として示して、それをみながら、同じ図を描いてもらいます。 	
計		

解析の結果、対象者（認知症短期集中リハビリテーション実施者）、対照群ともにMMSの変化は認められなかった。



(4) 調査期間に実施された認知症短期集中リハビリテーションの内容とその効果

①調査期間において実施された認知症短期集中リハビリテーションの内容

3ヶ月間の調査期間において実施された認知症短期集中リハビリテーションの回数は、17人の対象者（認知症短期集中リハビリテーション実施者）に対して397回であり、1人平均23回であった。

3ヶ月の調査期間において実施された認知症短期集中リハビリテーションの内容を目的別にみると以下の通りである。

		実際の活動						合計	
		見当識訓練	学習（訓練）療法	記憶の訓練	作業療法	運動療法	回想法		その他
目的	見当識の向上	296	255	150	95	103	1	19	919
	記憶力の改善	149	139	148	50	34	1	19	540
	注意・集中力の改善	231	219	137	65	111	0	19	782
	気分の発散	120	92	49	75	81	21	0	438
	その他	34	36	19	0	0	0	2	91
	合計	830	741	503	285	329	23	59	2770

(延べ回数)

②ADL等における効果

それぞれの療法を受けた対象者（認知症短期集中リハビリテーション実施者）グループについて、ADL等の改善比較を行ったところ、下記の結果が得られた。

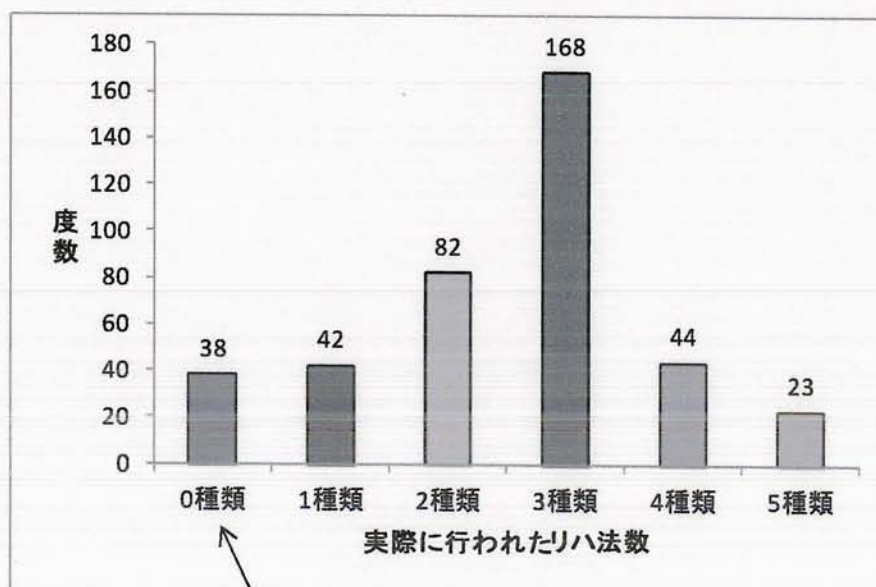
- 見当識訓練を受けたグループでは、ADL、意欲 周辺症状（DBD）において改善が認められた。
- 学習（訓練）療法を受けたグループでは、ADL、意欲 周辺症状（DBD）において改善が認められた。
- 記憶の訓練を受けたグループでは、周辺症状（DBD）において改善が認められた。
- 作業療法を受けたグループでは、周辺症状（DBD）、HDS-Rにおいて改善が認められた。
- 運動療法を受けたグループでは、意欲 HDS-Rにおいて改善が認められた。

	ADL	活動	意欲	DBD	HDS-R	NMスケール	MMS
見当識訓練	p<0.05	ns	p<0.05	p<0.05	ns	ns	ns
学習（訓練）療法	p<0.05	ns	p<0.05	p<0.05	ns	ns	ns
記憶の訓練	ns	ns	ns	p<0.05	ns	ns	ns
作業療法	ns	ns	ns	p<0.05	p<0.05	ns	ns
運動療法	ns	ns	p<0.05	ns	p<0.05	ns	ns
回想法	ns	ns	ns	ns	ns	ns	ns

③認知症短期集中リハビリテーションの実施状況に関する分析

認知症短期集中リハビリテーションの実施状況について、データを分析した結果は以下の通りである。

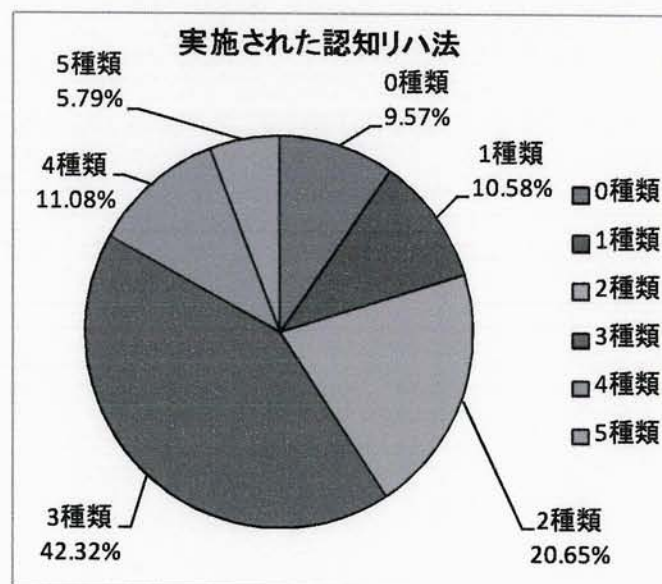
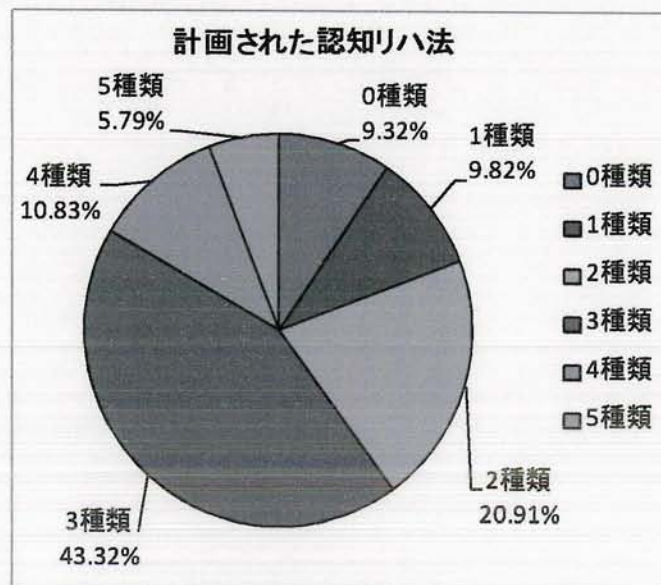
- ✓ 実際に行われたリハビリテーション法数は3種類が最も多い。



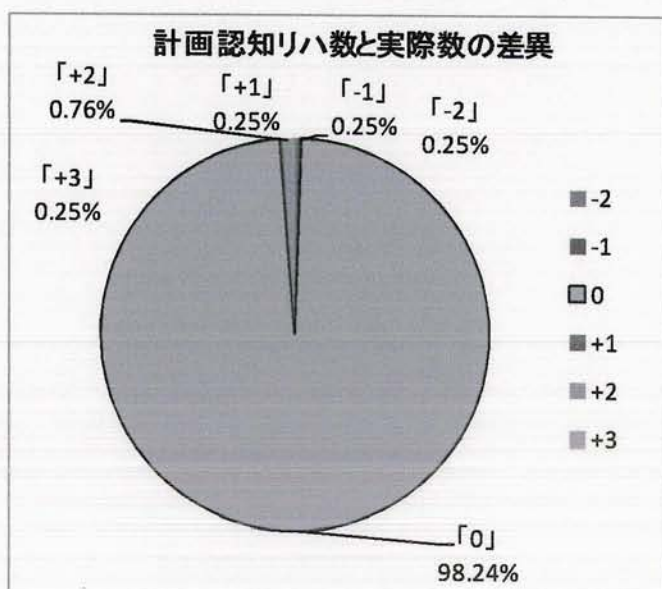
(注) 「0種類」38ケースのうち37ケースは、予定リハビリテーションと実施リハビリテーションが未記入のケースであり、記入漏れと想定される。

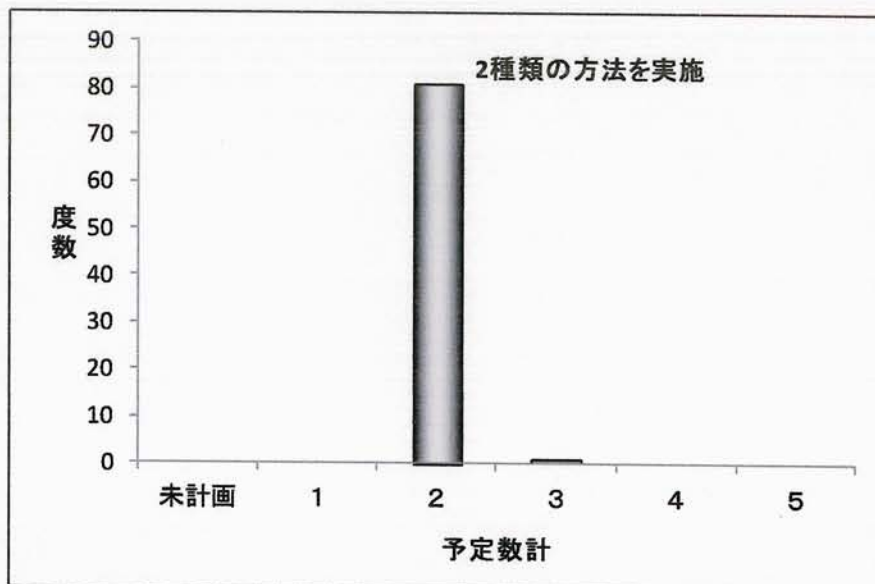
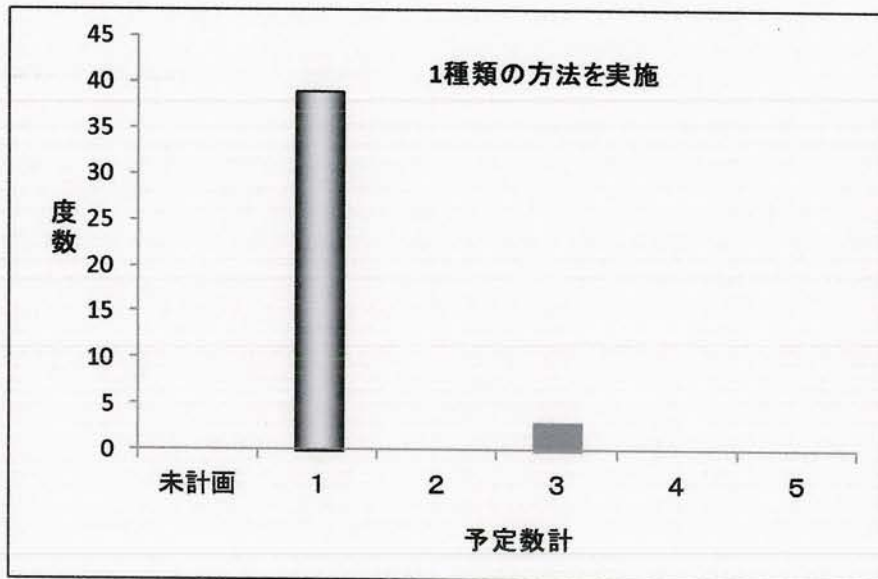
何らかのリハビリテーションが予定されていて実際には行われなかったケースは1ケースのみである。

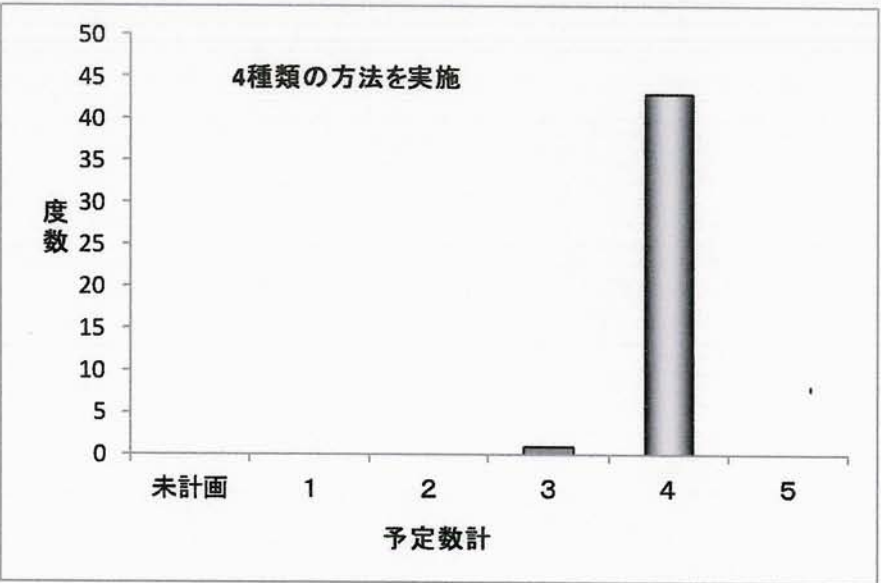
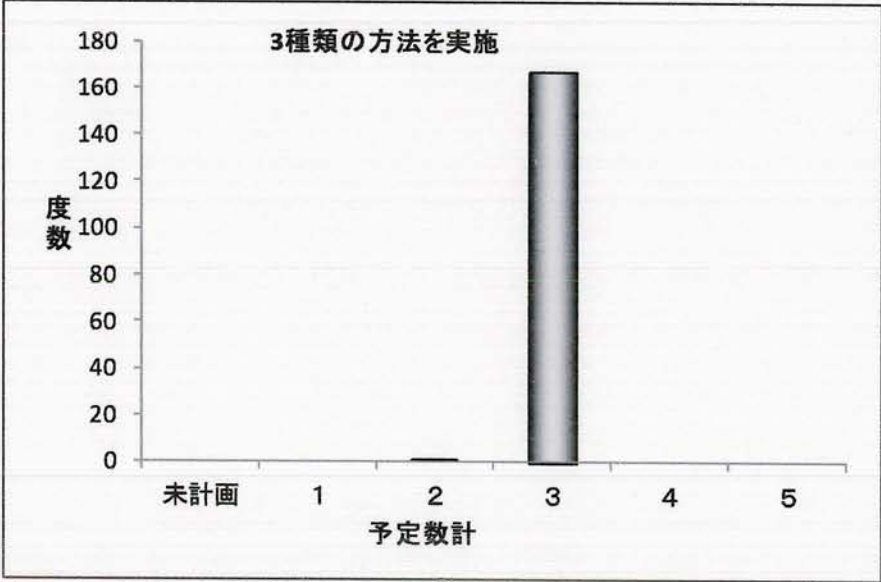
- ✓ 計画されたリハビリテーション法数、実際に行われたリハビリテーション法数ともに、3種類が最も多い。

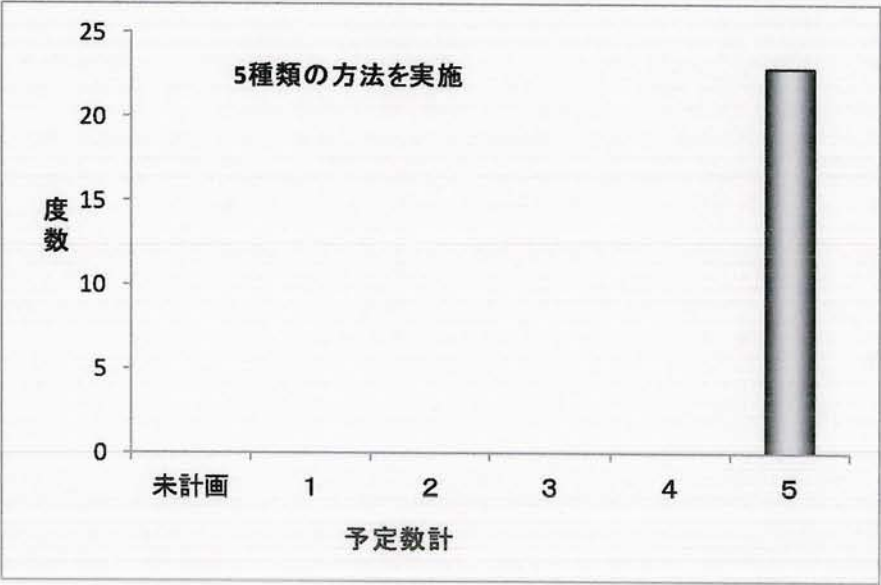


- ✓ 計画されたリハビリテーション法数と実際に行われたリハビリテーション法数に差のあったケースは、ほとんど無かった。







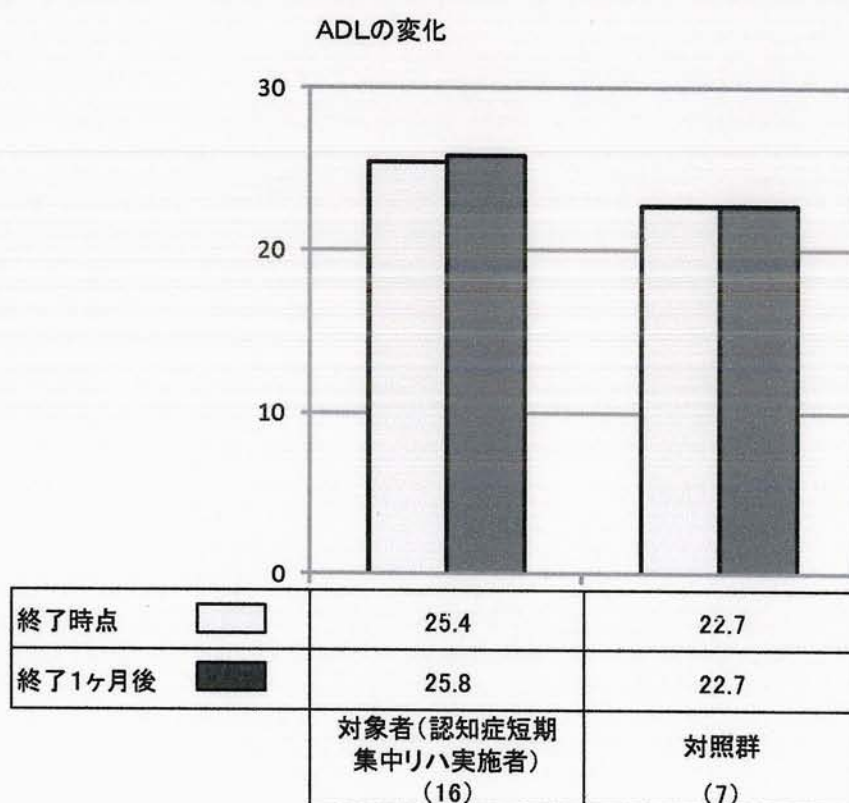


(5) 認知症短期集中リハビリテーション終了時点と1ヶ月後のデータの変化

ここでは、認知症短期集中リハビリテーション終了時点と1ヶ月後のデータの変化について解析した結果を示す。

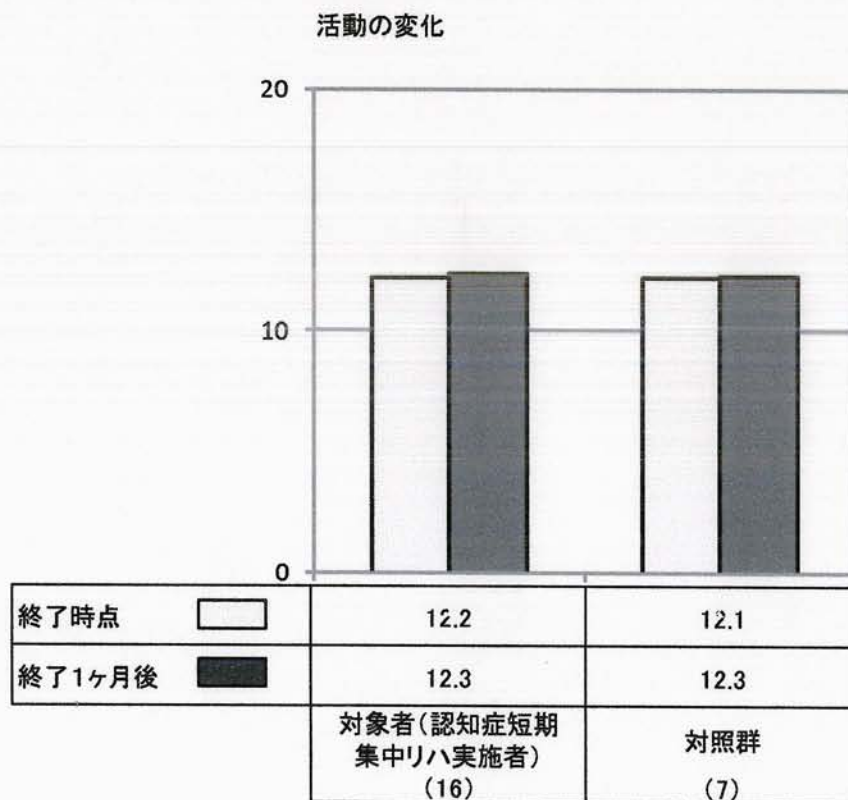
①ADL

解析の結果、対象者（認知症短期集中リハビリテーション実施者）、対照群ともに有意な差が見られなかった。



②活動

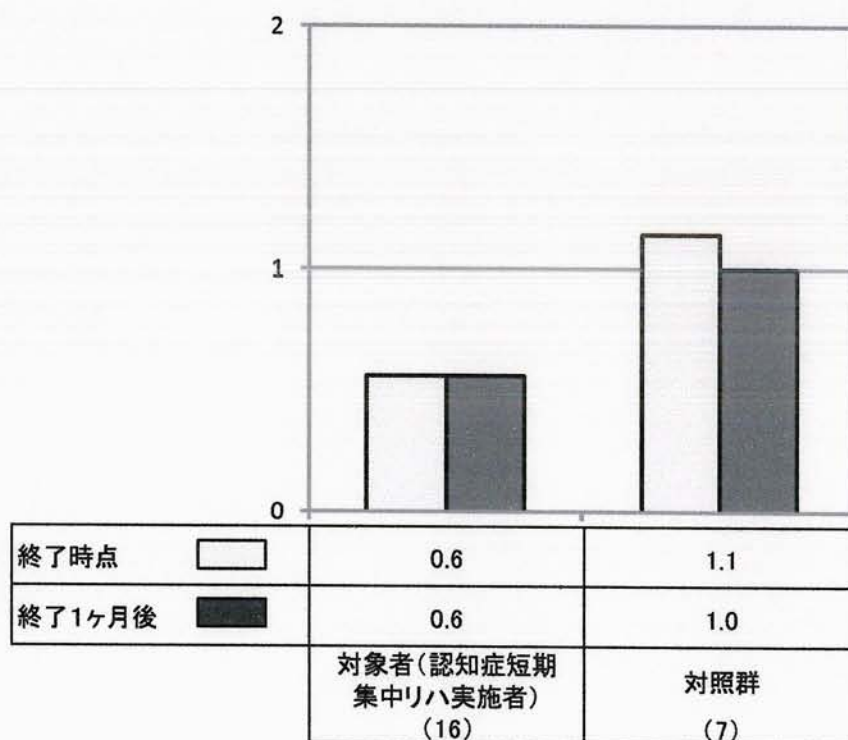
解析の結果、対象者（認知症短期集中リハビリテーション実施者）、対照群ともに有意な差が見られなかった。



③周辺症状

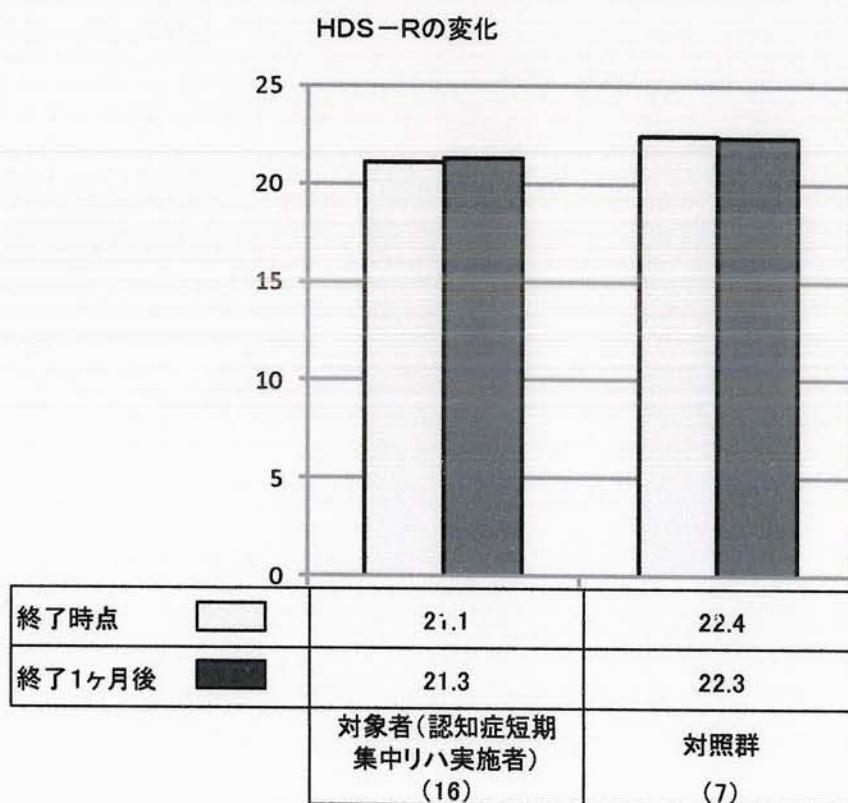
解析の結果、対象者（認知症短期集中リハビリテーション実施者）、対照群ともに有意な差が見られなかった。

周辺症状の変化



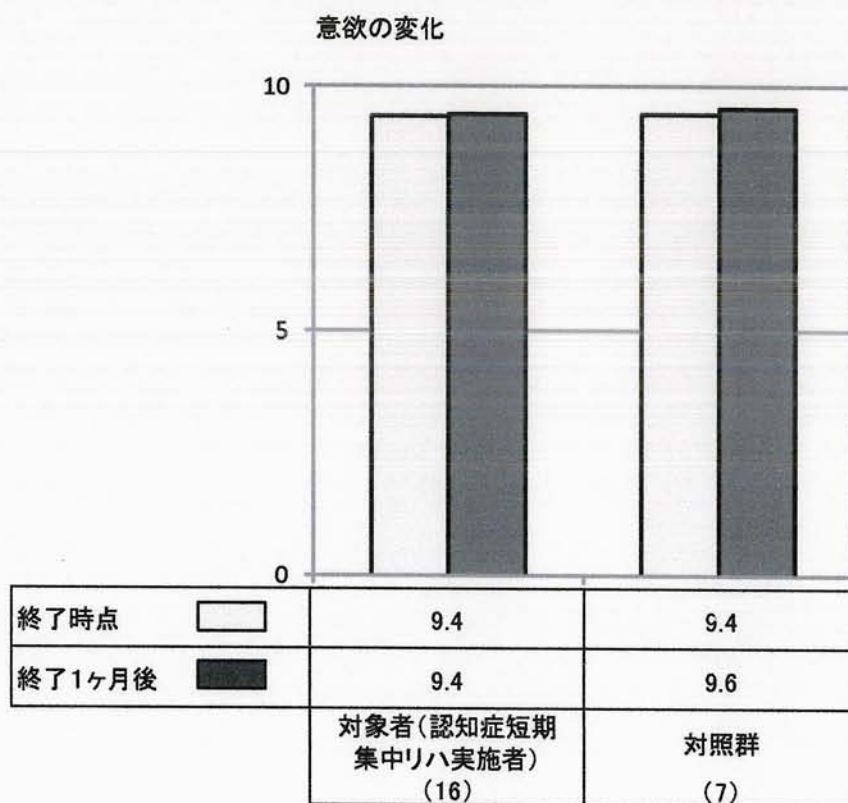
④認知機能

解析の結果、対象者（認知症短期集中リハビリテーション実施者）、対照群ともに有意な差が見られなかった。



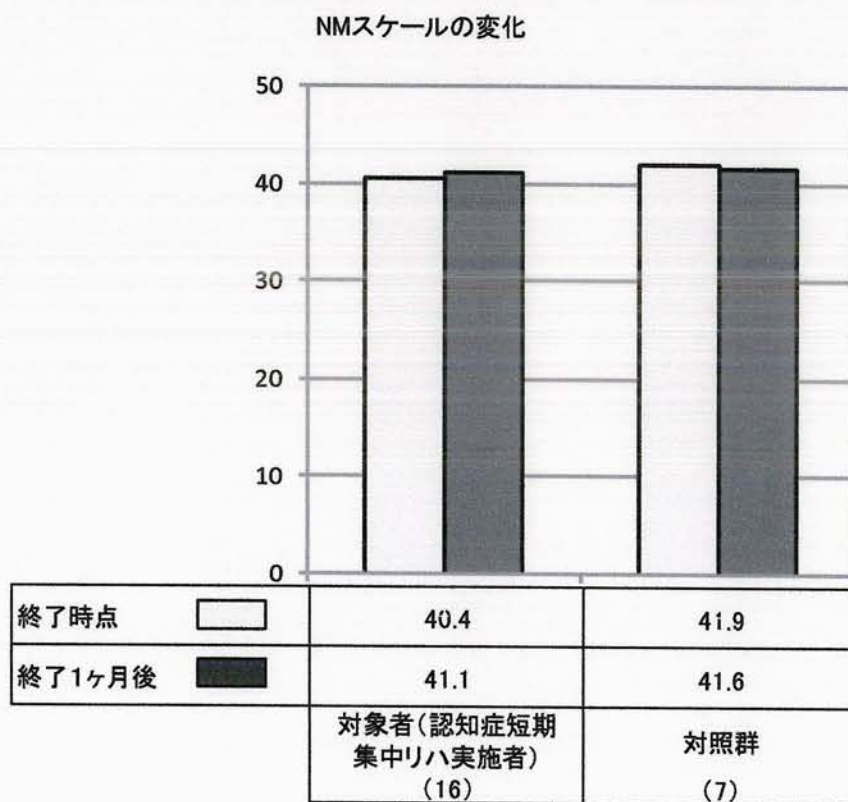
⑤意欲

解析の結果、対象者（認知症短期集中リハビリテーション実施者）、対照群ともに意欲の変化は認められなかった。



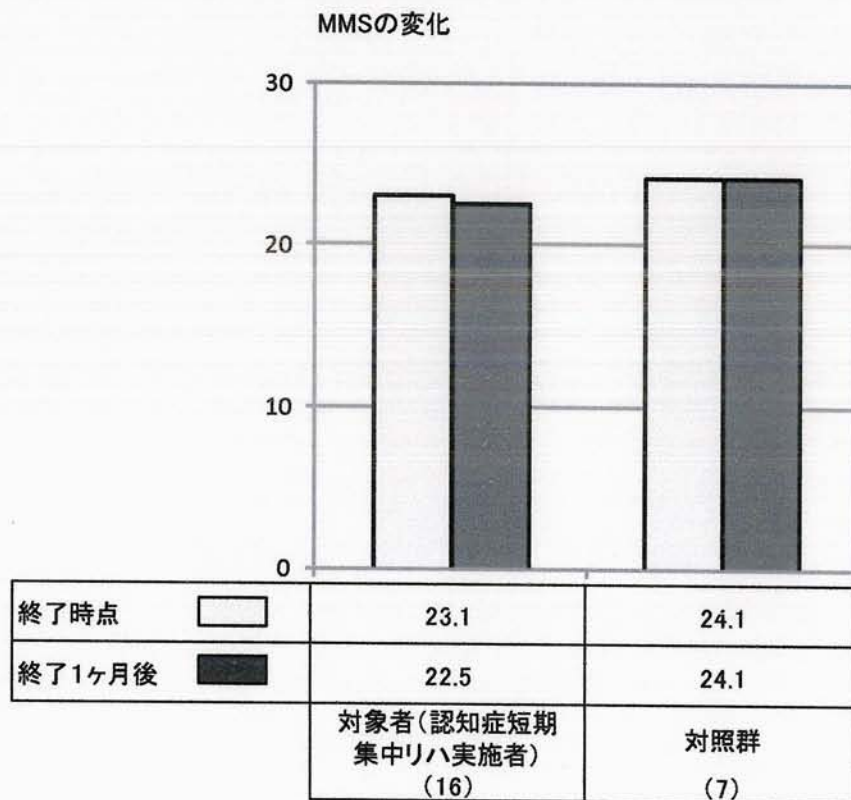
⑥臨床的認知症重症度


解析の結果、対象者（認知症短期集中リハビリテーション実施者）、対照群ともにNMスケールの変化は認められなかった。



⑦MMS

解析の結果、対象者（認知症短期集中リハビリテーション実施者）、対照群ともにMMSの変化は認められなかった。





**(6) 参考：認知症短期集中リハビリテーション開始時点からリハビリテーション終了
1ヶ月後に渡る状況の変化**

ここでは参考として、以下の項目の3時点における対象者（認知症短期集中リハビリテーション実施者）と対照群の平均値の推移を示す。

- ADL
- 活動
- 周辺症状
- 認知機能（HDS-R）
- 意欲
- 臨床的認知症重症度（NMスケール）
- MMS

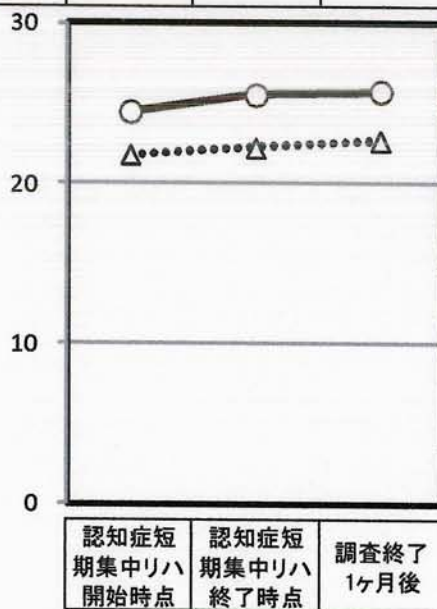
なお、3時点は以下の3つの時点を指す。

- 1：「認知症短期集中リハビリテーション」の開始時点
- 2：「認知症短期集中リハビリテーション」の終了時点
- 3：「認知症短期集中リハビリテーション」終了後1ヶ月経過した時点

①ADL

ADLの推移

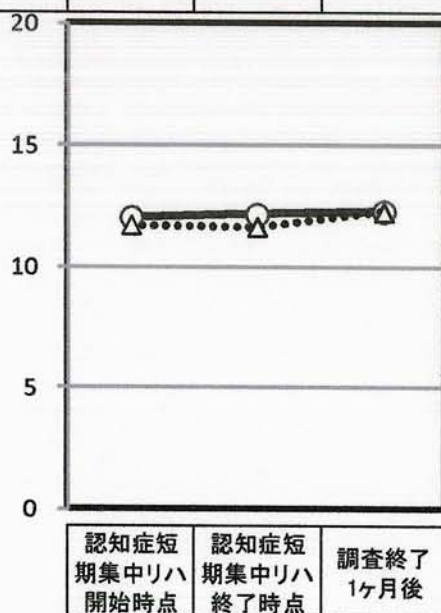
	認知症短期集中リハ開始時点	認知症短期集中リハ終了時点	調査終了1ヶ月後
対象者(認知症短期集中リハ実施者)平均値 	24.47	25.53	25.75
対照群平均値 	21.83	22.25	22.71



②活動


活動の推移

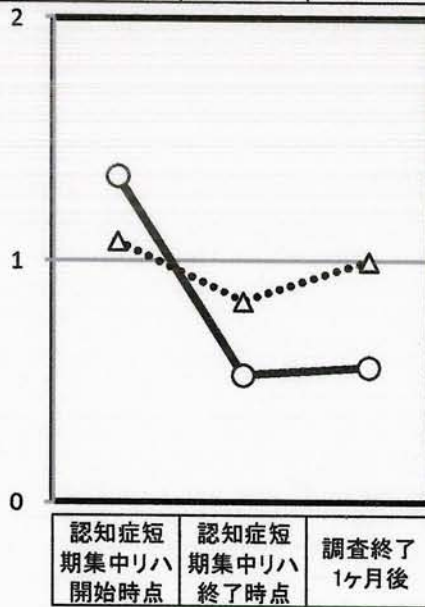
	認知症短期集中リハ開始時点	認知症短期集中リハ終了時点	調査終了1ヶ月後
対象者(認知症短期集中リハ実施者)平均値 	12.06	12.18	12.31
対照群平均値 	11.75	11.67	12.29



③周辺症状



周辺症状の推移

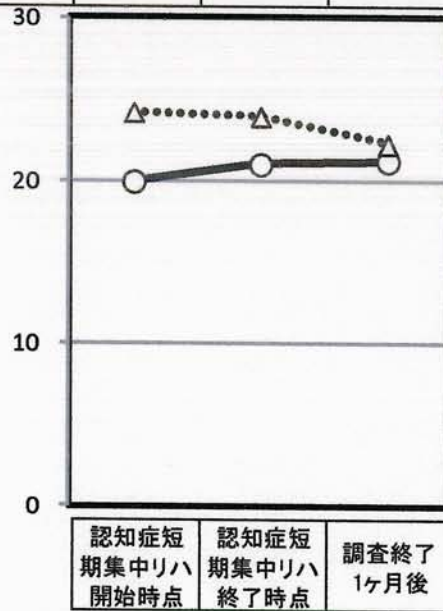
	認知症短期集中リハ開始時点	認知症短期集中リハ終了時点	調査終了1ヶ月後
対象者(認知症短期集中リハ実施者)平均値 	1.35	0.53	0.56
対照群平均値 	1.08	0.83	1.00



④ 認知機能



HDS-Rの推移

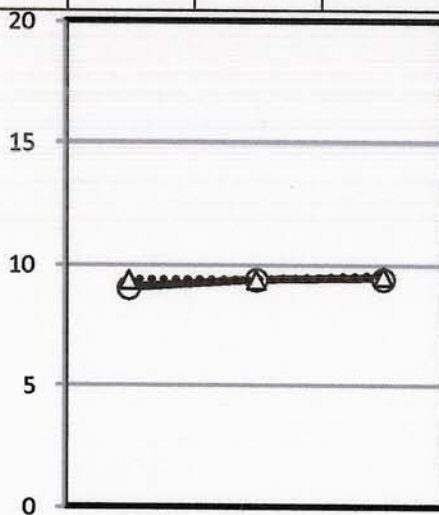
	認知症短期集中リハ開始時点	認知症短期集中リハ終了時点	調査終了1ヶ月後
対象者(認知症短期集中リハ実施者)平均値 	20.00	21.07	21.27
対照群平均値 	24.17	23.92	22.29



⑤意欲

意欲の推移

	認知症短期集中リハ開始時点	認知症短期集中リハ終了時点	調査終了1ヶ月後
対象者(認知症短期集中リハ実施者)平均値 	9.06	9.41	9.44
対照群平均値 	9.42	9.42	9.57

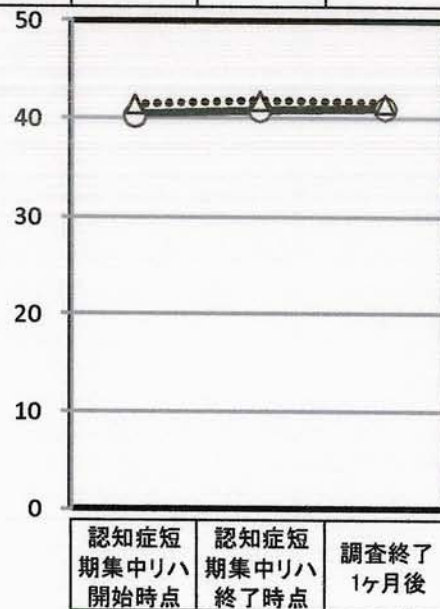


認知症短期集中リハ開始時点	認知症短期集中リハ終了時点	調査終了1ヶ月後
---------------	---------------	----------

⑥臨床的認知症重症度

NMスケールの推移

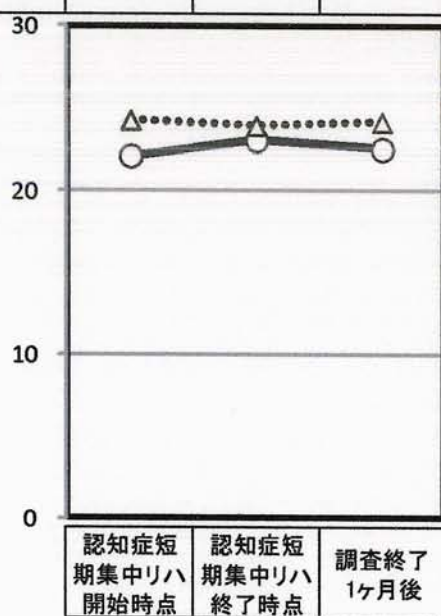
	認知症短期集中リハ開始時点	認知症短期集中リハ終了時点	調査終了1ヶ月後
対象者(認知症短期集中リハ実施者)平均値 	40.29	40.88	41.06
対照群平均値 	41.50	41.83	41.57



⑦MMS

MMSの推移

	認知症短期集中リハ開始時点	認知症短期集中リハ終了時点	調査終了1ヶ月後
対象者(認知症短期集中リハ実施者)平均値 	22.13	23.07	22.53
対照群平均値 	24.25	23.92	24.14



3. 解析結果のまとめ

以上の解析の結果、次のことが明らかとなった。

＜軽度認知症高齢者に対する認知症短期集中リハビリテーションの効果＞

- 対象者（認知症短期集中リハビリテーション実施者）でADLの改善が認められた。
- 対象者（認知症短期集中リハビリテーション実施者）で周辺症状の改善が認められた。
- 対象者（認知症短期集中リハビリテーション実施者）で意欲の改善が認められた。
- 軽度認知症高齢者に対する認知症短期集中リハビリテーションのコンプライアンスは極めて良好である。予定されていたリハビリテーション内容と実施されたリハビリテーション内容に差のあるケースはほとんどなかった。
- 軽度認知症高齢者に対する認知症短期集中リハビリテーションの各種療法による改善比較によると、以下の結果が得られた。
 - ✓ 見当識訓練を受けたグループでは、ADL、意欲 周辺症状（DBD）において改善が認められた。
 - ✓ 学習（訓練）療法を受けたグループでは、ADL、意欲 周辺症状（DBD）において改善が認められた。
 - ✓ 記憶の訓練を受けたグループでは、周辺症状（DBD）において改善が認められた。
 - ✓ 作業療法を受けたグループでは、周辺症状（DBD）、HDS-Rにおいて改善が認められた。
 - ✓ 運動療法を受けたグループでは、意欲 HDS-Rにおいて改善が認められた。

4. 本年度調査のローデータ

(1) 調査協力施設数と解析対象者数

調査協力施設は11施設。解析対象者数は、対象者（認知症短期集中リハビリテーション実施者）が17名、対照群が12名であった。

(2) 被験者の性別

被験者の性別は、男性が合計14名（うち認知症短期集中リハビリテーション対象者8名、対照群6名）、女性が13名（うち認知症短期集中リハビリテーション対象者8名、対照群5名）であった。

	全体	男性	女性	(無回答)
全体	29 (100.0%)	14 (48.3%)	13 (44.8%)	2 (6.9%)
対象者(認知症短期集中リハ実施者)	17 (100.0%)	8 (47.1%)	8 (47.1%)	1 (5.9%)
対照群	12 (100.0%)	6 (50.0%)	5 (41.7%)	1 (8.3%)
(無回答)	0	0	0	0

(3) 被験者の年齢

被験者の年齢は、70歳代が多く、次いで80歳代が多かった。

	全体	~59歳	60~69歳	70~79歳	80~89歳	90~99歳	100歳以上	(無回答)
全体	29 (100.0%)	0 (0.0%)	1 (3.4%)	13 (44.8%)	10 (34.5%)	3 (10.3%)	0 (0.0%)	2 (6.9%)
対象者(認知症短期集中リハ実施者)	17 (100.0%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)	10 (58.8%)	4 (23.5%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)
対照群	12 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (25.0%)	6 (50.0%)	2 (16.7%)	0 (0.0%)	1 (8.3%)
(無回答)	0	0	0	0	0	0	0	0

(4) 被験者の要介護度

被験者の要介護度について、認知症短期集中リハビリテーション開始時点の状況と、認知症短期集中リハビリテーション終了時点、調査終了1ヶ月後の状況を見ると、以下の通りである。

要介護度(認知症短期集中リハ開始時点)

	全体	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	(無回答)
全体	29 (100.0%)	1 (3.4%)	4 (13.8%)	7 (24.1%)	9 (31.0%)	3 (10.3%)	2 (6.9%)	1 (3.4%)	2 (6.9%)
対象者(認知症短期集中リハ実施者)	17 (100.0%)	0 (0.0%)	3 (17.6%)	5 (29.4%)	4 (23.5%)	1 (5.9%)	2 (11.8%)	1 (5.9%)	1 (5.9%)
対照群	12 (100.0%)	1 (8.3%)	1 (8.3%)	2 (16.7%)	5 (41.7%)	2 (16.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (8.3%)
(無回答)	0	0	0	0	0	0	0	0	0

要介護度(認知症短期集中リハ終了時点)

	全体	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	(無回答)
全体	29 (100.0%)	0 (0.0%)	2 (6.9%)	8 (27.6%)	6 (20.7%)	3 (10.3%)	2 (6.9%)	1 (3.4%)	7 (24.1%)
対象者(認知症短期集中リハ実施者)	17 (100.0%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)	6 (35.3%)	2 (11.8%)	1 (5.9%)	2 (11.8%)	1 (5.9%)	4 (23.5%)
対照群	12 (100.0%)	0 (0.0%)	1 (8.3%)	2 (16.7%)	4 (33.3%)	2 (16.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (25.0%)
(無回答)	0	0	0	0	0	0	0	0	0

要介護度(調査終了1ヶ月後)

	全体	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	(無回答)
全体	29 (100.0%)	4 (13.8%)	5 (17.2%)	5 (17.2%)	5 (17.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.4%)	9 (31.0%)
対象者(認知症短期集中リハ実施者)	17 (100.0%)	2 (11.8%)	2 (11.8%)	4 (23.5%)	4 (23.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)	4 (23.5%)
対照群	12 (100.0%)	2 (16.7%)	3 (25.0%)	1 (8.3%)	1 (8.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (41.7%)
(無回答)	0	0	0	0	0	0	0	0	0

要介護度の変化(認知症短期集中リハ前後) 全体

	全体	下がった	不変	上がった	(無回答)
全体	29 (100.0%)	0 (0.0%)	21 (72.4%)	0 (0.0%)	8 (27.6%)
要支援1	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)
要支援2	4 (100.0%)	0 (0.0%)	2 (50.0%)	0 (0.0%)	2 (50.0%)
要介護1	7 (100.0%)	0 (0.0%)	6 (85.7%)	0 (0.0%)	1 (14.3%)
要介護2	9 (100.0%)	0 (0.0%)	6 (66.7%)	0 (0.0%)	3 (33.3%)
要介護3	3 (100.0%)	0 (0.0%)	3 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
要介護4	2 (100.0%)	0 (0.0%)	2 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
要介護5	1 (100.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
(無回答)	2 (100.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)

要介護度の変化(認知症短期集中リハ前後) 対象者(認知症短期集中リハ実施者)

	小計	下がった	不変	上がった	(無回答)
小計	17 (100.0%)	0 (0.0%)	12 (70.6%)	0 (0.0%)	5 (29.4%)
要支援1	0 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
要支援2	3 (100.0%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	2 (66.7%)
要介護1	5 (100.0%)	0 (0.0%)	5 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
要介護2	4 (100.0%)	0 (0.0%)	2 (50.0%)	0 (0.0%)	2 (50.0%)
要介護3	1 (100.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
要介護4	2 (100.0%)	0 (0.0%)	2 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
要介護5	1 (100.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
(無回答)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)

要介護度の変化(認知症短期集中リハ前後) 対象群

	小計	下がった	不変	上がった	(無回答)
小計	12 (100.0%)	0 (0.0%)	9 (75.0%)	0 (0.0%)	3 (25.0%)
要支援1	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)
要支援2	1 (100.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
要介護1	2 (100.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)
要介護2	5 (100.0%)	0 (0.0%)	4 (80.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)
要介護3	2 (100.0%)	0 (0.0%)	2 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
要介護4	0 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
要介護5	0 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
(無回答)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

(5) 認知症の原因疾患

被験者の認知症の原因疾患をみると、全体、対象者（認知症短期集中リハビリテーション実施者）、対照群ともに、「その他」が最も多かった。

	全体	アルツハイマー(AD)	脳血管疾患(VD)	レビー	前頭側頭	その他	(無回答)
全体	29 (20.7%)	4 (13.8%)	2 (6.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	19 (65.5%)	5 (17.2%)
対象者(認知症短期集中リハ実施者)	17 (23.5%)	3 (17.6%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	12 (70.6%)	0 (0.0%)
対照群	12 (16.7%)	1 (8.3%)	1 (8.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (58.3%)	0 (0.0%)
(無回答)	0	0	0	0	0	0	0

(6) 調査後の退所の状況

被験者の調査終了1ヶ月後の居住先は、下表の通りである。

	全体	自宅	居住系施設	グループ ホーム	特養	病院	その他	(無回答)
全体	29 (1.00)	19 (65.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (13.8%)	6 (20.7%)
対象者(認知症短期集中リハ 実施者)	17 (0.94)	13 (76.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (17.6%)	0 (0.0%)
対照群	12 (0.58)	6 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (8.3%)	0 (0.0%)
(無回答)	0	0	0	0	0	0	0	0

(7) 認知症治療薬の服用状況

被験者が認知症治療薬を服用していたかどうかについても調査を行った。通所リハビリテーション開始前に服用していた被験者は、全体で2名、認知症短期集中リハビリテーション対象者で2名、対照群で0名であった。

調査期間中に服用していた被験者は、全体で2名、認知症短期集中リハビリテーション対象者で2名、対照群で0名であった。

認知症治療薬服用の有無(通所リハ開始前)

	全体	あり	なし	不明	(無回答)
全体	29 (100.0%)	2 (6.9%)	19 (65.5%)	1 (3.4%)	7 (24.1%)
対象者(認知症短期集中リハ実施者)	17 (100.0%)	2 (11.8%)	12 (70.6%)	1 (5.9%)	2 (11.8%)
対照群	12 (100.0%)	0 (0.0%)	7 (58.3%)	0 (0.0%)	5 (41.7%)
(無回答)	0	0	0	0	0

認知症治療薬服用の有無(調査期間中)

	全体	あり	なし	不明	(無回答)
全体	29 (100.0%)	2 (6.9%)	19 (65.5%)	1 (3.4%)	7 (24.1%)
対象者(認知症短期集中リハ実施者)	17 (100.0%)	2 (11.8%)	12 (70.6%)	1 (5.9%)	2 (11.8%)
対照群	12 (100.0%)	0 (0.0%)	7 (58.3%)	0 (0.0%)	5 (41.7%)
(無回答)	0	0	0	0	0

認知症治療薬服用の有無(調査終了1ヶ月後)

	全体	あり	なし	不明	(無回答)
全体	29 (100.0%)	2 (6.9%)	19 (65.5%)	1 (3.4%)	7 (24.1%)
対象者(認知症短期集中リハ実施者)	17 (100.0%)	2 (11.8%)	12 (70.6%)	1 (5.9%)	2 (11.8%)
対照群	12 (100.0%)	0 (0.0%)	7 (58.3%)	0 (0.0%)	5 (41.7%)
(無回答)	0	0	0	0	0

まとめと結論

(1) まとめ

通所リハビリテーション参加者の同意を得て、認知症短期集中リハビリテーション実施者17名と対照群12名において期間中の認知機能や生活機能を測定すると共に、終了1ヶ月後のフォローアップを行い、機能の維持に関して検討した。

- 1) 認知症短期集中リハビリテーション実施期間中には、入所者対象に行なった先行研究と同様に、リハ実施群のみにおいて、ADL ($p < 0.05$)、意欲の改善 ($p < 0.05$)、周辺症状の軽減 ($p < 0.05$) が認められたが、中核症状の改善は有意ではなかった。
- 2) これらの改善効果は、各種療法で大きな差はなかった。
- 3) 終了1ヶ月後のフォローアップでは、終了時点と比較し有意な変動は認められなかった。
- 4) 終了1ヶ月後のフォローアップでは、開始前と比較し、周辺症状の軽減 ($p < 0.05$) が認められた。

(2) 結論

通所リハビリテーション参加者の認知症短期集中リハビリテーションは、周辺症状の軽減、意欲の向上、ADLの改善に効果的であり、終了後1ヶ月間はその効果が持続する。

より長期的な持続効果とどのくらい期間をあけて、認知症短期集中リハビリテーションを再開すべきかについては、今後の検討課題である。

参考 調査票等



全老健第 23-259 号
平成 23 年 9 月 12 日

会員各位

公益社団法人全国老人保健施設協会
会長 山田 和彦
(公印省略)
軽度の認知症予防のためのリハビリテ-
ーションの提供方法に関する調査研究
事業班
班長 鳥羽 研二

「平成 23 年度軽度の認知症予防のためのリハビリテーションの提供方法に関する調査」
ご協力について (お願い)

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

昨年度実施の老人保健事業推進費等補助金事業「認知症短期集中リハビリテーション提供後の継続的な認知リハビリテーションの効果に関する調査研究事業」につきましては、多大なるご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

平成 18~20 年度「認知症短期集中リハビリテーション実態調査」、平成 21 年度「認知症高齢者における維持期リハビリテーション実態調査」及び昨年度の研究事業におきまして、いずれの段階においても認知症のリハビリテーションは効果があるという結果を得ることができました。

今年度も、平成 23 年度老人保健事業推進費等補助金 (老人保健健康増進等事業分) を受け、認知症のリハビリテーションに関する調査研究事業として「軽度の認知症予防のためのリハビリテーションの提供方法に関する調査研究事業」を実施することとなりました。

本事業は、介護老人保健施設の通所リハビリテーションを利用する軽度の認知症高齢者を対象に認知症リハビリテーションを提供し、利用者の個別性を担保するリハビリテーションの実践方法等を模索するとともに、その効果についても検証を行い、在宅生活を送る軽度の認知症高齢者に対する介護老人保健施設の認知症リハビリテーションの具体的な施策の方向性について検討することを目的としております。

調査の精度を確保する観点から、先だつて御依頼申し上げた通り、平成 18~22 年度の調査にご協力いただきました施設に調査のご協力をお願いしたいと存じます。

つきましては、諸事ご多忙の折、誠に恐縮でございますが、本調査の主旨をご理解いただき、特段のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

謹白

本件問合わせ先:

公益社団法人全国老人保健施設協会事務局 業務部業務第一課
TEL.03-3455-4165 FAX.03-3455-4179

平成 23 年度
軽度の認知症予防のためのリハビリテーションの
提供方法に関する調査

～ 実施要綱 ～

I. 調査の目的

本調査は、平成 18～20 年度「認知症短期集中リハビリテーション実態調査」および平成 21 年度「認知症高齢者における維持期リハビリテーション実態調査」、平成 22 年度「認知症高齢者の継続リハビリテーション実態調査」の継続として、実施するものです。平成 18～22 年度の調査にご協力いただきました施設には、この場をお借りしまして御礼申し上げます。

さて、平成 21 年度介護報酬改定において、短期集中リハビリテーション、認知症(短期集中)リハビリテーションの評価が大幅に見直されました。特に認知症短期集中リハビリテーションにおいては、その対象者の拡大や新たに介護療養型医療施設や通所リハビリテーションにも加算が新設されるなど、利用者の変化を早期に把握し、集中的なリハビリテーションにより改善を図る体制が明確になっております。

そこで、今年度は、在宅等における軽度の認知症の高齢者を対象に認知症短期集中リハビリテーションを提供し、その効果を検証することとしました。

今年度の調査も、介護報酬の算定要件に関する調査にもなります。趣旨をご理解いただき、ご協力のほどよろしくお願い致します。

II. 調査対象施設

調査の精度を確保する観点から、平成 18～22 年度に実施させて頂きました「認知症短期集中リハビリテーション実態調査」「認知症高齢者における維持期リハビリテーション実態調査」「認知症高齢者の継続リハビリテーション実態調査」においてご回答いただいた施設を中心とした会員施設

III. 調査結果の記載

電子媒体にてお願いします。

(調査票は、別添 CD-ROM にございます。直接ご入力いただき、回答はメールにて回収致します。: info@noken.or.jp)

原本を送りいただく場合は、平成 24 年 2 月 6 日(月)までにまとめて着払いにてお送りください。

IV. 調査内容

調査は、認知症短期集中リハビリテーション実施フェーズと、終了1ヶ月後の状況把握フェーズに分かれています。

認知症短期集中リハビリテーション実施フェーズは9月中旬～12月、終了1ヶ月後の状況把握フェーズは12月中旬～来年1月になります。

(1) 認知症短期集中リハビリテーション実施フェーズ

本フェーズは対象者・対照群を置いて行います。

① 対象者・対照群を以下のように設定して下さい。

- 9月15日(木)～30日(金)に貴施設の通所リハビリテーションの利用を開始する人のうち、下記に該当する人に通し番号(No. 1～)を付けて下さい。

*通所リハビリテーション利用者のうち、軽度の認知症(軽度認知障害:MCIを含む)
*概ね MMS:15/30以上
HDS-R:15/30以上

- 上記で番号を付けた人それぞれについて、対象者とするか対照群とするかアトランダムに決めて下さい。

【以下のような手順でアトランダムに決めてください】

・サイコロを振って、出た番号が奇数なら「対象者」、偶数なら「対照群」とする。
・サイコロがなければ、硬貨を投げて、表面(数字の書いてある面)が出たら「対象者」、裏面が出たら「対照群」とする。

※公平を期すために、上記の手順は、リハスタッフ以外の方(治験実施担当者ではない方)が行って下さい。また、1人で決めるのではなく、1名以上の方が立ち会いのもとに決めて下さい。

- ##### ② 調査の実施に当たっては、添付ファイル「02 同意書」等を用い、対象者(利用者)及びそのご家族に事前に本調査の趣旨などをご説明いただくとともに、同意を得て下さい。(同意を得られない方は、本調査の対象者から除外して頂いて構いません。)

↓

同意が得られましたら「説明及び協力同意書」に署名・捺印を頂いて下さい。(お手数ですが、人数分コピーをお取り下さい。)なお、ご本人から直接の同意を受けることが困難な場合には、ご本人の意思及び利益を代弁できると考えられる「代諾者」の同意を得て下さい。

↓

対象者全員分の「説明及び協力同意書」を貴施設にてとりまとめていただき、事業終了後、**平成24年2月24日(金)までに**当協会あてご郵送ください。(別添、返信用封筒をご利用下さい。)

(注) 同意書の取り付けについて

本調査は、利用者ご本人の医療・介護に関わる情報を収集することになりますので、お手数でも添付ファイル「02 同意書」の書式をご利用頂き、必ず説明及び協力同意書の取り付けを行って頂きますようお願い致します。

また、調査対象者が認知症等により有効なインフォームド・コンセントを与えることができないと客観的に判断される場合には、代読者（当該調査対象者の法定代理人等、調査対象者の意思及び利益を代弁できると考えられる方）の同意と署名により、調査への同意取り付けに替えることが可能です。

この調査により得られたデータをこの調査以外の目的で使用することはありません。また、調査データについて、個人が特定されるような公表は一切致しませんので、調査対象者並びに調査実施者のプライバシーは守られます。

なお、途中で調査への協力を撤回されたい場合は、いつでも同意を取り消すことができます。この場合は、添付ファイル「02 同意書」の最後にあります「協力同意撤回書」にご署名頂いたうえ、ご一報下さい。

- ③ これ以後の、調査票への入力には、対象者の氏名が特定できないように番号にて表記をしてください。ただし、入力頂きました内容の確認が後からできますように、添付ファイル「03 対比表」に「通し番号」と「お名前」「対象者・対照群の種別」をご記入(入力)頂き、貴施設にて保管下さいませよう、宜しくお願い致します。

(本調査で知り得た個人情報は、調査の目的以外には使用致しません。)

また、お手数ですが、対象者人数を把握致しますので、対比表が完成次第、氏名を抜いたもので対比表ファイルを全老健事務局までご送付下さい。(10月7日(金)までにお送り下さい。メールアドレスは1ページをご参照ください。)

- ④ 対象者全員の認知症短期集中リハビリテーション開始時点の状況、および対照群全員の通所リハビリテーション利用開始時点の状況について、添付ファイル「04 認知症短期集中リハ開始時(通所リハビリテーション開始時)の調査票」に入力して下さい。

入力して頂きました調査票のファイルは、全老健事務局までご送付下さい。(10月7日(金)までにお送り下さい。メールアドレスは1ページをご参照ください。)

- ⑤ 対象者全員に、3ヶ月間、認知症短期集中リハビリテーションを実施して下さい(毎週2~3回、1回当たり20分)。ただし、1回実施するごとに、添付ファイル「05 認知症短期集中リハ実施のチェックシート」に入力して下さい。

- ⑥ 対照群の方々については、上記の対象者に行うような認知症短期集中リハビリテーションは実施しない下さい。

- ⑦ 認知症短期集中リハビリテーションが終了致しましたら、添付ファイル「06 認知症短期集中リハ終了時(通所リハビリテーション開始3ヵ月後)の調査票」に入力して下さい。

対照群の方々については、通所リハビリテーション開始3ヵ月後の状況を入力して下さい。

- ⑧ 上記⑤と⑦のファイルをとりとめて、全老健事務局までご送付下さい。(リハビリテーション部門の長もしくは責任者の方のチェックの上、平成24年1月10日(火)までにお送り下さい。メールアドレスは1ページをご参照ください。)

(2) 認知症短期集中リハビリテーション終了(調査終了)1ヶ月後の状況把握

上記(1)の認知症短期集中リハビリテーション終了1ヶ月後の対象者・対象群の状況について、添付ファイル「07 調査終了1ヶ月後の調査票」に入力の上、全老健事務局までご送付下さい。(リハビリテーション部門の長もしくは責任者の方のチェックの上、**平成24年2月6日(月)まで**にお送り下さい。メールアドレスは1ページをご参照ください。)

(注) 調査を途中で中止するケースについて

調査期間中は、基本的に同じ環境、同じ状態であることが必要です。そこで、状態の大幅な変化を示す「医療機関へ入院した場合」など他の状況の変化で条件を満たさなくなった場合は、その時点で調査終了とします。その時点で最終結果を記入し、ご提出下さい。

(注) 提出期限厳守のお願い

上記の各書類の提出につきましては、期限を厳守して頂きますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

V. その他

ご回答いただきました個別のデータは非公開とし、本調査の目的以外には使用いたしません。

VI. 問い合わせ先：公益社団法人全国老人保健施設協会 業務部業務第一課

〒105-0014 東京都港区芝 2-1-28 成旺ビル7階

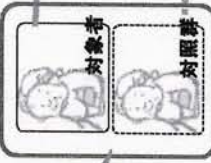
TEL:03-3455-4165 FAX:03-3455-4172

ホームページ：<http://www.roken.or.jp/> メールアドレス：info@roken.or.jp

平成23年度「軽度の認知症予防のためのリハビリテーションの提供方法に関する調査」の全体イメージ

※過去の調査協力施設を中心とする100施設に協力を依頼する

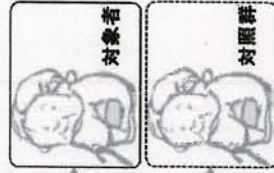
分岐方は、アトラクタム



<認知症短期集中リハ実施>

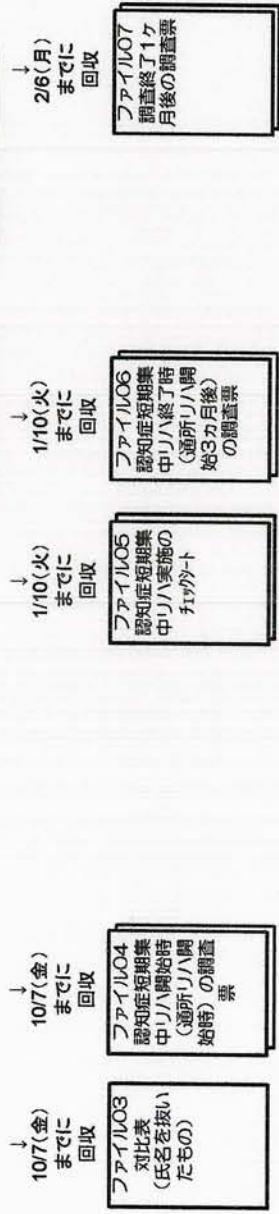
※9月15日～30日に通所リハを開始する利用者のうち、
軽度な認知症の方を選び、対象者と対照群に分ける
 (概ね MMS: 15/30以上
 HDS-R: 15/30以上)

<認知症短期集中リハを実施せず>



認知症短期集中リハ終了 (調査終了) (1ヶ月後)

認知症短期集中リハ終了 (調査終了) (12月)



平成 23 年度
軽度の認知症予防のためのリハビリテーションの
提供方法に関する調査

ご協力をお願い

平素は、当施設の運営にご協力頂きまして、誠に有難うございます。

さて、この度、当施設では、平成 23 年度に公益社団法人全国老人保健施設協会が実施する「軽度の認知症予防のためのリハビリテーションの提供方法に関する調査」に協力することになりました。

この調査は、在宅等における軽度の認知症の高齢者の方々を対象に認知症短期集中リハビリテーションを提供し、その効果を検証することを目的として実施されるものであり、認知症の方によりよいサービス提供ができるように検討する基礎データとして活用されます。

なお、この調査により得られたデータをこの調査以外の目的で使用することはありません。また、お名前などの個人情報は一切わからないようにしますのでプライバシーは守られます。

また、途中で調査への協力を撤回されたい場合は、いつでも同意を取り消すことができます。

詳しい調査内容については、次ページ以降をご覧ください。

平成 23 年 ____ 月 ____ 日

施設名： _____

平成 23 年度
軽度の認知症予防のためのリハビリテーションの
提供方法に関する調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、在宅等における軽度の認知症の高齢者の方を対象に認知症短期集中リハビリテーションを提供し、その効果を検証することを目的として実施されるものであり、介護報酬見直しの検討の際の基礎データとしても活用されます。

今後の介護老人保健施設のサービスのあり方を考える上での重要な調査ですので、趣旨をご理解頂き、ご協力下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。

2. 調査の内容

■調査の対象

全国の介護老人保健施設100施設（予定）において、本年の9月後半に通所リハビリテーションを開始する方々のうち、軽度の認知症を持っている方

■調査の方法

- ・上記の利用者について、認知症短期集中リハビリテーション開始時点（通所リハビリテーション開始時点）の状況と実施状況・3ヵ月後（認知症短期集中リハビリテーション終了時点）の状況、および、その後1ヶ月を経過した時点の状況を記録します。
- ・記録は、リハビリテーションの担当者あるいは責任者が行います。

■ご利用者様の区分

認知症短期集中リハビリテーション実施フェーズでは、認知症短期集中リハビリテーションを実施する対象者と、そうしたリハビリテーションを実施しない対照群に分かれます。

現時点では、どなたが対象者になり、どなたが対照群になるか全く分かりません。後日、無作為に割り付けを行います。

認知症短期集中リハビリテーションを実施する対象者になりますと、実施しない対照群より多少利用料が高くなります。

実施しない対照群になった場合、ご希望により4ヵ月後にリハビリテーションを受けることが可能です。

■調査日

平成23年__月__日 ~ __月__日

3. 調査の実施体制

■実施主体

公益社団法人全国老人保健施設協会

〒105-0014 東京都港区芝 2-1-28 成旺ビル7階

TEL : 03-3455-4165 FAX : 03-3455-4172

ホームページ : <http://www.roken.or.jp/>

メールアドレス : info@roken.or.jp

■調査実施における当施設内の責任者

4. 調査にご協力頂く場合の配慮

■ご利用者のご家族の個人情報について法令を遵守します。

- ・実施主体である公益社団法人全国老人保健施設協会に報告する情報には、個人の氏名・住所等、個人が特定できるような情報を記入する欄はなく、符号のみで処理する仕組みとなっております。
- ・ご利用者およびご家族の方の個人が特定できるような情報がそのまま公表されることはなく、ご迷惑をおかけすることはありません。
- ・同意書にご署名のうえ調査にご協力いただいた場合でも、いつでも同意を取り消すことができますので、お申し出ください。

■ご協力頂きました情報は、本調査以外の目的には使用いたしません。

■同意されない場合でも、同意されました後で同意を取り消される場合でも、いかなる不利益も発生致しません。

5. 調査に関するお問い合わせ先

施設名 : _____

担当者 : _____

誠に恐縮でございますが、取り組みの趣旨をご理解の上、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 23 年度
軽度の認知症予防のためのリハビリテーションの
提供方法に関する調査

説明及び協力同意書

当職は、「軽度の認知症予防のためのリハビリテーションの提供方法に関する調査の概要」記載の事項を説明のうえ、当施設及び公益社団法人全国老人保健施設協会において、以下の事項を遵守することを説明いたしました。

- ◆ 本調査(軽度の認知症予防のためのリハビリテーションの提供方法に関する調査)への協力にあたり、調査内容を本研究事業以外の目的に使用することはありません。また、協力者の個人名暗号化等の対策により、個人情報について法令を遵守します。
- ◆ 調査協力者に対するケアやサービスに影響が生じることや不利益が生じるものではありません。

施設名： _____ 説明者名： _____

施設長： _____ 宛

私は以上について十分な説明を受け、その趣旨を了承した上で、本調査に協力することに同意します

年 月 日
御署名

_____ (印)
代諾者(又は代筆者) _____ 代筆の場合は、立会人名(必須)
[_____]

(本人との関係) _____

代諾者(代筆)で署名した理由

- ※ 同意書は必ずご本人が署名してください。
- ※ やむを得ず、自署が不可能で、施設職員が立会いのもと、ご本人の同意が確認でき、ご家族又は法定代理人が代筆する場合、代筆で署名した理由をご記入ください。

以上

【本件問合せ先】

(担当者) _____

※同意書原本は調査票とともに全老健にて保管いたします。ご本人控については、コピー等で対応させていただきますのでお申し出下さい。

平成 23 年度
軽度の認知症予防のためのリハビリテーションの
提供方法に関する調査
協力同意撤回書

私は、「軽度の認知症予防のためのリハビリテーションの提供方法に関する調査」に協力することに同意しましたが、その同意を撤回することを、

(施設名) _____ の

(担当者名) _____ に伝え、

ここに同意撤回書を提出します。

年 月 日

御署名

印

代筆の場合は、立会人名(必須)

代諾者(又は代筆者) _____ [_____]

(本人との関係) _____

代諾者(代筆)で署名した理由

※ 同意撤回書は必ずご本人が署名してください。

※ やむを得ず、自署が不可能で、施設職員が立会いのもと、ご本人の同意が確認でき、ご家族又は法定代理人が代筆する場合、代筆で署名した理由をご記入ください。

以上

【本件問合せ先】

(担当者) _____

平成23年度 軽度の認知症予防のための
 リハビリテーションの提供方法に関する調査
 実施対象者等対比票（取扱い注意）

※この票は、貴施設にて保管下さい。

※ただし、調査対象者数把握のため、また、対象者・対照群の区分けに用いますので、氏名を抜いたファイルを全老健事務局までご提出ください。

	調査票標記 (通し番号)		お名前	対象者・対照群 の種別
例	①	→	老健 太郎	対象者
		→		
		→		
		→		
		→		
		→		
		→		
		→		
		→		
		→		
		→		
		→		
		→		
		→		
		→		
		→		
		→		
		→		
		→		
		→		
		→		
		→		
		→		
		→		
		→		

認知症短期集中リハビリ開始時点(通所リハビリテーション開始時点)の調査票(その1)

計画評価実施日 年 月 日

利用者の通し番号: 性別: 男・女 生年月日 年 月 日(歳) 要介護度:

認知症 発症時期 年 月 日 アルツハイマー病() 脳血管性認知症() レビー小体病() 前頭側頭型認知症() その他()	認知症の程度 ごく軽度 軽度 中等度 重症 重症 なし 軽度 中等度	障害・家族低下 あり・なし 慢性症状 あり・なし	心身機能 <input type="checkbox"/> 運動機能障害: <input type="checkbox"/> 感覚機能障害: <input type="checkbox"/> 高次脳機能障害: <input type="checkbox"/> 両眼(視位): <input type="checkbox"/> 聴覚機能(聴位): <input type="checkbox"/> その他:
参加 主目標 (コロン(:)の後に具体的内容を記入: 入居・入所中の場合の退院先 <input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> その他: <input type="checkbox"/> 退院未定 家内の役割(食事、洗濯、掃除、買い物、料理、銀行や郵便局、車の自己管理) 社会活動: 外出(バスや電車を伴って単独で、付添があればバスや電車を伴って、タクシーか乗用車): 頻度(一月) 求職活動(内容・頻度等): 退院後利用資源:			

日常生活・社会活動

自立・介護 状況	現在の評価及び目標					項目	状況	現在の評価及び目標			
	自立	要 介 護	一 部 介 助	行 介 助	行 介 助 す			項目	実 に	よ く あ る	と き に
トイレへの移動・行為	3	2	1	0		物をなくす、置き場所を間違える、物を隠す	3	2	1	0	
車イスへの移動	3	2	1	0		扉を開けてばかりいる	3	2	1	0	
階段昇降	3	2	1	0		介護拒否	3	2	1	0	
歩行	3	2	1	0		例にことを何度も繰り返す	3	2	1	0	
食事	3	2	1	0		愚直	3	2	1	0	
排泄(尿)	3	2	1	0		買いがかりをつける	3	2	1	0	
排泄(便)	3	2	1	0		不適切な、季節外れの服装をする	3	2	1	0	
服穿	3	2	1	0		物をため込む	3	2	1	0	
更衣	3	2	1	0		日常的な物事に関心を示さない	3	2	1	0	
入浴	3	2	1	0		家事拒否	3	2	1	0	
ADL合計						例に動作をいつまでも繰り返す	3	2	1	0	
職員との食料	3	2	1	0		物を数らさず	3	2	1	0	
入所者との食料	3	2	1	0		徘徊	3	2	1	0	
身の回りの片づけ	3	2	1	0		その他(具体的に)	3	2	1	0	
リハビリ	3	2	1	0		その他(具体的に)	3	2	1	0	
外出	3	2	1	0		その他(具体的に)	3	2	1	0	
活動合計						周辺症状合計(DBD 113)					

生活行為

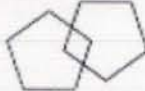
自立・介護 状況	現在の評価及び目標		
	自立	要 介 護	要 介 助
起床	2	1	0
挨拶	2	1	0
食事	2	1	0
排泄	2	1	0
リハ、レク	2	1	0
合計(意欲の指標)			

認知症短期集中リハ開始時点(通所リハビリテーション開始時点)の調査票(その2)

改訂長谷川式スケール		点数	
1. 年齢	お歳はいくつですか？(2年までの誤差は正解)	0 1	
2. 日時の見当識	今日は何年の何月何日ですか？何曜日ですか？(年、月、日、曜日が正解でそれぞれ1点ずつ)	年	0 1
		月	0 1
		日	0 1
		曜日	0 1
3. 場所の見当識	私たちがいるところはどこですか？(具体的なできれば2点、おおよそで、家ですか？病院ですか？施設ですか？の中から正しい選択をすれば1点)	0 1 2	
4. 3つの言葉の記銘	これから言う3つの言葉を覚えてみて下さい。あとでまた聞きますのでよく覚えておいてください。 (以下の言葉のいずれか1つで、括弧した言葉に○印をつけておいてください) a) 電車 b) 電車 c) 電車 d) 電車 e) 自転車	0 1	
		0 1	
		0 1	
		0 1	
5. 計算	100から7を繰り下げて下さい。 (100)から7は？、それからまた7を引くと？と質問する。最初の答えが不正解の場合は行わない	(93) (86)	
6. 数字の逆唱	私にこれから言う数字を逆から覚えて下さい。 (2-8-6、3-0-2-1-9を逆から覚えてもらう。3桁逆唱に失敗したら行わない)	2-8-6 3-0-2-1-9	
7. 単語再生	先ほど覚えてもらった言葉をもう一度覚えてみて下さい。 (無意味に言葉があれば5点、無意味でない場合は以下のヒントを入手、正解であれば1点) a) 動物 b) 動物 c) 動物	a: 0 1 2	
		b: 0 1 2	
		c: 0 1 2	
8. 物品記銘	これから5つの品物を見せます。それを通しての気があったか覚えて下さい。(時計、筆、タコ、ペン、ボールなど必ず紙等に描画されたもの)	0 1 2 3 4 5	
9. 言葉の流暢性	知っている野菜の名前をできるだけ多く覚えて下さい。 (覚えなかった名前を欄に記入する。途中で無言時、約10秒間待っても出ない場合は行わない)	0 1 2	
		3 4 5	
計			

NMスケール	0点	1点	3点	5点	7点	9点	10点	点数
1. 家事・身の回し	不慣れ ほとんど無 手の手洗い、洗剤の物は定着する	ごく簡単な家事、掃除も不慣れ、おしぼり、洗濯は定着する、これは出来る	簡単な買い物も不慣れ、ごく簡単な家事、掃除のしかたが分からず、ペット用品の管理ができる	簡単な買い物も不慣れ、ごく簡単な家事、掃除のしかたが分からず、ペット用品の管理ができる	簡単な買い物も不慣れ、ごく簡単な家事、掃除のしかたが分からず、ペット用品の管理ができる	簡単な買い物も不慣れ、ごく簡単な家事、掃除のしかたが分からず、ペット用品の管理ができる	簡単な買い物も不慣れ、ごく簡単な家事、掃除のしかたが分からず、ペット用品の管理ができる	
2. 関心・意欲・交流	無関心、全く何もない	無関心に多少関心ある、ほんやりと雑談に誘うことが多い	関心のあることはある、関心のあることはある、関心のあることはある、関心のあることはある	関心のあることはある、関心のあることはある、関心のあることはある、関心のあることはある	関心のあることはある、関心のあることはある、関心のあることはある、関心のあることはある	関心のあることはある、関心のあることはある、関心のあることはある、関心のあることはある	関心のあることはある、関心のあることはある、関心のあることはある、関心のあることはある	
3. 会話	呼びかけに無反応	呼びかけに一定反応するが、自ら話すことはない	簡単な会話は可能、呼びかけに一定反応するが、自ら話すことはない	簡単な会話は可能、呼びかけに一定反応するが、自ら話すことはない	簡単な会話は可能、呼びかけに一定反応するが、自ら話すことはない	簡単な会話は可能、呼びかけに一定反応するが、自ら話すことはない	簡単な会話は可能、呼びかけに一定反応するが、自ら話すことはない	
4. 記銘・記憶	不慣れ	最近の出来事は覚えていない、古い記憶が多少残る、生活リズムが定着している	最近の出来事は覚えていない、古い記憶が多少残る、生活リズムが定着している	最近の出来事は覚えていない、古い記憶が多少残る、生活リズムが定着している	最近の出来事は覚えていない、古い記憶が多少残る、生活リズムが定着している	最近の出来事は覚えていない、古い記憶が多少残る、生活リズムが定着している	最近の出来事は覚えていない、古い記憶が多少残る、生活リズムが定着している	
5. 見当識	全くなし	呼びかけ、人物の性別、服装の区別は出来る	呼びかけ、人物の性別、服装の区別は出来る	呼びかけ、人物の性別、服装の区別は出来る	呼びかけ、人物の性別、服装の区別は出来る	呼びかけ、人物の性別、服装の区別は出来る	呼びかけ、人物の性別、服装の区別は出来る	
計								

認知症短期集中リハ開始時点(通所リハビリテーション開始時点)の調査票(その3)

MMS (Mini-Mental State)		点数
1 見当識(5点)	今年は何年ですか 今日は何月ですか 今日は何日ですか 今の季節は何ですか 今日は何曜日ですか	
2 見当識(5点)	ここは何県ですか ここは何市ですか この施設名は何ですか ここは何層ですか ここは何階ですか	
3 記名(3点)	ゆっぴりと、写しに間違のない10語、たとえば「みかん、電車、サル」 を書いてください。直後にその通りに繰り返し書入れれば3点としま す。その筆跡を覚えておくようにしています。	
4 計算(5点)	100から順番に、7を引くことを5回繰り返させる (93 86 79 72 65)	
5 想起(3点)	約5分たってから、「さっき書いた三つの言葉を思い出していつて ください」と尋ねます。正しく3つ思い出されれば、3点とします。	
6 虚名(2点)	神野を覚えて、これは何ですかと聞く 新藤を覚えて、これは何ですかと聞く	
7 復唱(1点)	「ちりもつられば、やまとなる」をゆっぴりして、同じように繰り返す ように書きます。	
8 三段階口頭命令(3点)	紙切れを机の上に乗せておいてから、ゆっぴり指示します 「右半でこの紙を取ってください」 「それを半分に折られたんでください」 「机の上に置いてください」	
9 書字命令(1点)	「目を閉じてください」とかいてある紙を見せて、その通りに動作で やれるかどうかをみます。	
10 文章(1点)	なにか文章を書いてくださいと指示します。	
11 図形(1点)	下の図を、半本として示して、それをみながら、同じ図を描いてもら います。 	
計		

「チェックシート」の入力について(説明)

シートは1枠で1回実施分です。

認知症短期集中リハを1回実施するごとに、日付を記入して、1人につき1枠を作成します。
実施回数分、枠を追加して入力して下さい。
その回のリハビリの中で、主な活動(最大3つまで)を選び、チェックします。
それぞれの活動について、目的、結果をチェックします。
最期に、考察備考欄に、自由記載形式で記録を記載します。

認知症短期集中リハビリ

施設名 A老健施設

利用者通し番号 3

日付	場所	目的	活動				経過・反応等	担当
			予定の活動	変更理由	実際の活動			
5/5	1階 学習室	見当識の向上	見当識訓練		見当識訓練	季節の話題では、こどもの日に反応よく、鯉のぼりを上げて子供が喜んで話され、日付の確認も「5月5日か」と、正答。表情良い。また学習(訓練)療法は計算を行う。1桁の足し算、引き算を素早く行う。誤りも幾らかあるが、集中して行える。		
		記憶力の改善	学習(訓練)療法	不穏	学習(訓練)療法			
		注意・集中力の改善	記憶の訓練	拒否	記憶の訓練			
		気分の発散	作業療法	傾眠	作業療法			
			運動療法	集中力の低下	運動療法			
			回想法		回想法			
5/7	3階 作業室	見当識の向上	見当識訓練	不穏	見当識訓練	見当識では先日、こどもの日があったためか5月6日と、おおよそ正解。鯉のぼりの話をされる。学習(訓練)療法の計算問題は、集中力がなく、「わからん」と拒否。鯉のぼりの話から、子育てに関して回想を行う。息子さんとうまく運動したことを思い出して懐かしむ。また、鯉のぼりにちなんで、唄「鯉のぼり」の曲を唄う。		
		記憶力の改善	学習(訓練)療法	拒否	学習(訓練)療法			
		注意・集中力の改善	記憶の訓練	傾眠	記憶の訓練			
		気分の発散	作業療法	集中力の低下	作業療法			
			運動療法		運動療法			
			回想法		回想法			
					音響療法			
/		見当識の向上	見当識訓練	不穏	見当識訓練	見当識訓練 学習(訓練)療法 記憶の訓練 作業療法 運動療法 回想法		
		記憶力の改善	学習(訓練)療法	拒否	学習(訓練)療法			
		注意・集中力の改善	記憶の訓練	傾眠	記憶の訓練			
		気分の発散	作業療法	集中力の低下	作業療法			
			運動療法		運動療法			
			回想法		回想法			

↓
実施回数分、下に追加して入力して下さい。

認知症短期集中リハビリ

施設名

利用者通し番号

日付	場所	目的	活動		経過・反応等	担当
			予定の活動	変更理由		
/		見当識の向上 記憶力の改善 注意・集中力の改善 気分の発散	見当識訓練 学習(訓練)療法 記憶の訓練 作業療法 運動療法 回想法	不穏 拒否 煩眠 集中力の低下	見当識訓練 学習(訓練)療法 記憶の訓練 作業療法 運動療法 回想法	
/		見当識の向上 記憶力の改善 注意・集中力の改善 気分の発散	見当識訓練 学習(訓練)療法 記憶の訓練 作業療法 運動療法 回想法	不穏 拒否 煩眠 集中力の低下	見当識訓練 学習(訓練)療法 記憶の訓練 作業療法 運動療法 回想法	
/		見当識の向上 記憶力の改善 注意・集中力の改善 気分の発散	見当識訓練 学習(訓練)療法 記憶の訓練 作業療法 運動療法 回想法	不穏 拒否 煩眠 集中力の低下	見当識訓練 学習(訓練)療法 記憶の訓練 作業療法 運動療法 回想法	

認知症短期集中リハ終了時(通所リハ開始3ヵ月後)の調査票(その1)

計画評価実施日 年 月 日

利用者番号: 要介護度: 施設名:

認知症 アルツハイマー病 () 脳血管性認知症 () レビー小体病 () 前頭側頭型認知症 () その他 ()	発症時期 年 月 日 認知症の程度 ごく軽度 軽度 中等度 重度 最重度 なし 軽度 中等度	初診・来院以下 あり/なし 慢性症状 あり/なし	心身機能 <input type="checkbox"/> 運動機能障害: <input type="checkbox"/> 感覚機能障害: <input type="checkbox"/> 高次脳機能障害: <input type="checkbox"/> 両眼(視位): <input type="checkbox"/> 聴覚(聴位): <input type="checkbox"/> その他:
参加 主目標 (コロン:)の後に具体的な内容を記: 入院・入所中の場合の退院先 <input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> その他: <input type="checkbox"/> 退院未定 家庭内役割(炊事、洗濯、掃除、買い物、料理、銀行や郵便局、車の自己管理) 社会活動: 外出(バスや電車を伴って単独で、付添があればバスや電車を伴って、タクシーが乗用車):頻度(月) 家族活動(内容・頻度等): 退院後利用資源:			

生活行為

自立・介護 状況 項目	現在の評価及び目標					項目	状況	現在の評価及び目標					
	自立 あり	要 介 助	一 部 介 助	介 助 を 要 す	行 わ ず			使用用具 杖・浴衣・歩 行器・車椅子 など	介護内容 つたいもたれ 等	実 に	よ く あ る	と き に	な い
日常生活・社会活動	トイレへの移動・行動	3	2	1	0			物をなくす、置き場所を間違える、物を落とす	3	2	1	0	
	車イスへの移動	3	2	1	0			服装適切ばかりいる	3	2	1	0	
	階段昇降	3	2	1	0			介護拒否	3	2	1	0	
	歩行	3	2	1	0			同じことを何度も訊く	3	2	1	0	
	食事	3	2	1	0			購買	3	2	1	0	
	排泄(尿)	3	2	1	0			買いがかりをつける	3	2	1	0	
	排泄(便)	3	2	1	0			壊滅的な、季節外れの服装をする	3	2	1	0	
	髪剪	3	2	1	0			物をため込む	3	2	1	0	
	更衣	3	2	1	0			日常的な物事に関心を示さない	3	2	1	0	
	入浴	3	2	1	0			服装逆転	3	2	1	0	
	ADL合計								同じ動作をいつまでも繰り返す	3	2	1	0
	職員との食料	3	2	1	0			物を散らかす	3	2	1	0	
	入所者との食料	3	2	1	0			排泄	3	2	1	0	
	身の回りの片づけ	3	2	1	0			その他(具体的に)	3	2	1	0	
	リハビリ等	3	2	1	0			その他(具体的に)	3	2	1	0	
外出	3	2	1	0			その他(具体的に)	3	2	1	0		
活動合計								周辺症状合計(DBD 113)					

生活行為

自立・介護 状況 項目	現在の評価及び目標		
	自 立 的	要 介 助	要 介 助
起床	2	1	0
挨拶	2	1	0
食事	2	1	0
排泄	2	1	0
リハ、レク	2	1	0
合計(家状の指標)			

認知症短期集中リハ終了時(通所リハ開始3カ月後)の調査票(その2)

改訂長谷川式スケール		点数	
1. 年齢	お歳はいくつですか？(2年までの熟年は正解)		0 1
2. 日時の見当鑑	今日は何年の何月何日ですか？何曜日ですか？(年、月、日、曜日が正解でそれぞれ1点ずつ)	年	0 1
		月	0 1
		日	0 1
		曜日	0 1
3. 場所の見当鑑	私たちがいるところはどこですか？(最終的にできれば2点、5秒おいて、家ですか？病院ですか？施設ですか？の中から正しい選択をすれば1点)		0 1 2
4. 3つの言葉の配銘	これから言う3つの言葉を覚えて下さい。あとでまた聞きますのでよく覚えておいてください。 (以下の系列のいずれか1つで、採用した系列に○印をつけておく) 1. 桜 2. 葉 3. 電車 4. 花 5. 池 6. 又 7. 鳥籠		0 1
			0 1
			0 1
5. 計算	100から7を順番に引いてください。 (「100引く7は7、それからまた7を引くと？」と質問する。最初の答えが不正解の場合は打ち切る)	(93) (86)	0 1 0 1
6. 数字の逆順	私がこれから言う数字を逆から覚えて下さい。 (8-8-2、3-3-2-2-9を例に覚えてもらう。3桁逆順は失敗したら打ち切る)	2-8-8 9-2-5-3	0 1 0 1
7. 選定再生	先ほど覚えてもらった言葉をもう一度書いて下さい。 (最終的に正解があれば各2点。 もし正解がない場合は以下のスコアを与え、正解であれば1点) a) 植物 2) 動物 3) 乗り物		a: 0 1 2 b: 0 1 2 c: 0 1 2
8. 物品配銘	これから5つの品物を見せます。それを調子出すので何があったか書いて下さい。(神針、扇、タバコ、ペン、薬錠などが必ず指定に無関係なもの)		0 1 2 3 4 5
9. 言葉の流暢性	知っている野菜の名前をできるだけ多く書いて下さい。 (書いた野菜の名前を右欄に記入する。途中で断ると、約10秒間待つても出ない場合はそこで打ち切る) 0=0点、1=1点、2=2点、3=3点、4=4点、5=5点		0 1 2 3 4 5
計			

NIMスケール	0点	1点	3点	5点	7点	9点	10点	点数
1. 家事・身辺整理	不能	殆ど不能 車の運転、洗濯の物は取られる	ごく簡単な家事 管理も不要 「お、お、お」 成せば成すはく ことが出来る	簡単な買い物 が出来る。ごく簡単 な家事、管理のみ 「お、お、お」 成せば成すはく ことが出来る	簡単な買い物可 能 「お、お、お」 成せば成すはく ことが出来る	簡単な買い物可 能 「お、お、お」 成せば成すはく ことが出来る	簡単な買い物可 能 「お、お、お」 成せば成すはく ことが出来る	正常
2. 関心・意欲・交流	無関心 全く興味が無い	関心に多少関心 ある 「お、お、お」 成せば成すはく ことが出来る	関心に多少関心 ある 「お、お、お」 成せば成すはく ことが出来る	関心に多少関心 ある 「お、お、お」 成せば成すはく ことが出来る	関心に多少関心 ある 「お、お、お」 成せば成すはく ことが出来る	関心に多少関心 ある 「お、お、お」 成せば成すはく ことが出来る	関心に多少関心 ある 「お、お、お」 成せば成すはく ことが出来る	
3. 会話	喋りかけに無反応	喋りかけに一部 反応するが、意 味は通じない	ごく簡単な会話 のみ可能 「お、お、お」 成せば成すはく ことが出来る	簡単な会話は可能 であるが、 「お、お、お」 成せば成すはく ことが出来る	簡単な会話は可能 であるが、 「お、お、お」 成せば成すはく ことが出来る	簡単な会話は可能 であるが、 「お、お、お」 成せば成すはく ことが出来る	簡単な会話は可能 であるが、 「お、お、お」 成せば成すはく ことが出来る	
4. 配銘・記憶	不能	新しいことは全く 覚えられない 古い配銘が暗に ある 「お、お、お」 成せば成すはく ことが出来る	最近の配銘は暗に ない、古い配銘が 多少暗に ある 「お、お、お」 成せば成すはく ことが出来る	最近の配銘は暗に ない、古い配銘の 暗に ある 「お、お、お」 成せば成すはく ことが出来る	最近の配銘は暗に ない、古い配銘の 暗に ある 「お、お、お」 成せば成すはく ことが出来る	最近の配銘は暗に ない、古い配銘の 暗に ある 「お、お、お」 成せば成すはく ことが出来る	最近の配銘は暗に ない、古い配銘の 暗に ある 「お、お、お」 成せば成すはく ことが出来る	
5. 見当鑑	全くない	殆どなし 人物の名称、場所 の名称は 出来る	身近な人物、 場所、場所、場所 の名称は出来る 「お、お、お」 成せば成すはく ことが出来る	身近な人物、 場所、場所、場所 の名称は出来る 「お、お、お」 成せば成すはく ことが出来る	身近な人物、 場所、場所、場所 の名称は出来る 「お、お、お」 成せば成すはく ことが出来る	身近な人物、 場所、場所、場所 の名称は出来る 「お、お、お」 成せば成すはく ことが出来る	身近な人物、 場所、場所、場所 の名称は出来る 「お、お、お」 成せば成すはく ことが出来る	
計								

認知症短期集中リハ終了時(通所リハ開始3か月後)の調査票(その3)

MMS(Mini-Mental State)		点数
1 見当識(5点)	今日は何年ですか 今日は何月ですか 今日は何日ですか 今の季節は何ですか 今日は何曜日ですか	
2 見当識(5点)	ここは何県ですか ここは何市ですか ここの名前は何ですか ここは何国ですか ここは何地方ですか	
3 記名(3点)	ゆっくりと、真下に等速的な回転、たとえば「みかん、電車、サル」といってまわらせ、最後にその通りに繰り返して書えれば3点とします。その順序を変えておこなっていきます。	
4 計算(5点)	100から順々に、7を引くことを5回繰り返させる (93 86 79 72 65)	
5 想起(3点)	読み分かってから、「さっさい」の三つの言葉を思い出して「さっさい」と書ねます。正しく3つ思い出せれば、3点とします。	
6 命名(2点)	時計を見せて、これは何ですかと聞く 紙巻を見せて、これは何ですかと聞く	
7 模倣(1点)	「やりなれば、やまとなる」をゆっくりいって、同じように繰り返すように書います。	
8 三段階口頭命令(3点)	紙切れを机の上に置いておいてから、ゆっくり指示します 「右手でこの紙を取ってください」 「それを半分に分けてください」 「机の上に置いてください」	
9 書字命令(1点)	「真を閉じてください」とかいてある紙を見せて、その通りに動作でやれるかどうかをみます。	
10 文章(1点)	なにか文章を書いてくださいと指示します。	
11 図形(1点)	下の図を、手本として示して、それをみながら、同じ図を描いてもらいます。	
計		

「認知症短期集中リハ実施調査」の経過(以下のいずれかに○)

開始日から起算し3か月間実施

3か月未満で終了(上記以外)(その理由)

(その理由) 1. 医療機関へ入院
2. 養護施設へ入所
3. 養護施設以外の老健施設に入所
4. その他
(状況と理由:)

この3ヶ月間における「短期集中リハ(身体)」の実施の有無(以下のいずれかに○)

実施した

実施しなかった

この3ヶ月間における「小集団リハビリテーション(平成22年度調査の認知症継続リハ)」の実施の有無(以下のいずれかに○)

実施した

実施しなかった

認知症短期集中リハ終了(調査終了)1ヶ月後の調査票(その1)

計画評価実施日 年 月 日

利用者番号:

要介護度:

施設名:

自立・介護 状況	項目	現在の評価及び目標					状況	項目	現在の評価及び目標			
		自立	見守り	一部介助	実行介助	使用用具・杖・歩行器・車椅子など			介護内容 つたいもたれ 等	常に	よくある	ときに
日常生活・社会活動	トイレへの移動・行為	3	2	1	0			物をなくす、置き場所を間違える、物を壊す	3	2	1	0
	車イスへの移動	3	2	1	0			服装等でばかりいる	3	2	1	0
	階段昇降	3	2	1	0			介護拒否	3	2	1	0
	歩行	3	2	1	0			同じことを何度も訊く	3	2	1	0
	食事	3	2	1	0			暴言	3	2	1	0
	排便(家)	3	2	1	0			言いがかりをつける	3	2	1	0
	排便(便)	3	2	1	0			壊滅的な、季節外れの服装をする	3	2	1	0
	整容	3	2	1	0			物をため込む	3	2	1	0
	更衣	3	2	1	0			日常的な物事に関心を示さない	3	2	1	0
	入浴	3	2	1	0			暴言・暴行	3	2	1	0
	ADL合計							同じ動作をいつまでも繰り返す	3	2	1	0
	職員との会話	3	2	1	0			物を散らかす	3	2	1	0
	入所者との会話	3	2	1	0			徘徊	3	2	1	0
	身の回りの片づけ	3	2	1	0			その他(具体的に)	3	2	1	0
	リハビリ	3	2	1	0			その他(具体的に)	3	2	1	0
外出	3	2	1	0			その他(具体的に)	3	2	1	0	
活動合計							周辺症状合計(DBD 113)					

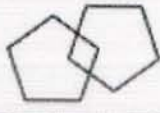
自立・介護 状況	項目	現在の評価及び目標		
		自 立	安 心	無 関 心
生活意欲	起床	2	1	0
	挨拶	2	1	0
	食事	2	1	0
	排便	2	1	0
	リハ、レク	2	1	0
合計(意欲の指標)				

認知症短期集中リハ終了(調査終了)1ヶ月後の調査票(その2)

改訂長谷川式スケール		点数	
1. 年齢	お歳はいくつですか？(2年までの誤差は正解)	0 1	
2. 日時の見当識	今日は何年の何月何日ですか？何曜日ですか？(年、月、日、曜日が正解でそれぞれ1点づつ)	年	0 1
		月	0 1
		日	0 1
		曜日	0 1
3. 場所の見当識	私たちが今いるところはどこですか？(自覚的にできれば2点、5秒おいて、家ですか？病院ですか？施設ですか？の中から正しい選択をすれば1点)	0 1 2	
4. 3つの言葉の記銘	これから言う3つの言葉を覚えてみて下さい。あとでまた聞きますのでよく覚えておいてください。 (以下の系列のいずれか1つで、採用した系列に○印をつけておく) 1) a) 松 b) 梨 c) 蘋果 2) a) 桃 b) 柿 c) 梨 3) a) 梅 b) 梨 c) 蘋果	0 1 0 1 0 1	
5. 計算	100から7を順番に引いてください。 「100引く7は？ それからまた7を引くと？」と質問する。最初の答えが不正解の場合は打ち切る	(93) (86) 0 1 0 1	
6. 数字の逆編	私がこれから言う数字を逆から覚えて下さい。 (6-8-2、3-5-2-9を例に覚えてもらう。3桁逆編に失敗したら打ち切る)	2-8-6 9-2-5-3 0 1 0 1	
7. 遠隔再生	先ほど覚えてもらった言葉をもう一度覚えてみて下さい。 (自覚的に回答があれば各2点、もし回答がない場合以下のヒントを年々、正解であれば1点) a) 植物 b) 動物 c) 乗り物	a: 0 1 2 b: 0 1 2 c: 0 1 2	
8. 物品記銘	これから5つの品物を見せませう。それを隠しますので何があったか覚えて下さい。(時計、傘、タコ、ペン、鏡など必ず相互に無関係なもの)	0 1 2 3 4 5	
9. 言葉の流暢性	知っている単語の名前をできるだけ多く覚えて下さい。 (書き出した単語の名前を正確に記入する。途中で打ち切り、約10秒間待っても出ない場合にはそこで打ち切る) 0-5=0点、6-1点、7-2点、8-3点、9-4点、10-5点	0 1 2 3 4 5	
計			

NMスケール	0点	1点	3点	5点	7点	9点	10点	点数
1. 家事・身の整理	不能	殆ど不能 -半の服・靴類の物は取れる	ごく簡単な家事、整理も不完全 -おしぼりを濡らば拭くことは出来る	簡単な買い物、不潔が、ごく簡単な家事、整理のみ -声が行って、ペット用品の整理ができる	簡単な買い物、洗濯、掃除、簡単な家事、整理は困難 -食器が洗える -トイレ・トイレの掃除が一人で可	やや複雑な調理、簡単な洗濯、掃除、簡単な家事、整理は困難 -靴磨きの他に、自分の部屋の整理	やや複雑な調理、簡単な洗濯、掃除、簡単な家事、整理は困難 -靴磨きの他に、自分の部屋の整理	
2. 関心・意欲・交流	無関心、全く何もしない	関心に多少関心あり -ぼんやりと雑談に参与することが多い	関心は伺えないが指示されれば簡単なことはしようとする -半歩ずつ雑談のグリップ等を見る	習慣的なことはある -関心は伺えないが、指示されれば簡単なことはしようとする -半歩ずつ雑談のグリップ等を見る	運動、家事、仕事、趣味などが何げばする -必要なことは自ら、話しかける	やや複雑な調理、簡単な洗濯、掃除、簡単な家事、整理は困難 -靴磨きの他に、自分の部屋の整理	やや複雑な調理、簡単な洗濯、掃除、簡単な家事、整理は困難 -靴磨きの他に、自分の部屋の整理	
3. 会話	呼びかけに無反応	呼びかけに一部反応するが、自ら話すことはない	ごく簡単な会話のみ可 -自分の名前を呼ぶことが多し -「青い、ごちそうさま、おはよう」等が出来る	簡単な会話は可能であるが、自分の名前を呼ぶことが多し -「青い、ごちそうさま、おはよう」等が出来る	話し方はなまめではないが、簡単な会話は可能である -相手の話が理解できる	やや複雑な調理、簡単な洗濯、掃除、簡単な家事、整理は困難 -靴磨きの他に、自分の部屋の整理	やや複雑な調理、簡単な洗濯、掃除、簡単な家事、整理は困難 -靴磨きの他に、自分の部屋の整理	正常
4. 記銘・記憶	不能	新しいことは全く覚えられない -古い記憶が稀にある -名前が書える	最近の記憶は殆どない、古い記憶が多少残存 -生年月日正確か -出生地を覚えていない	最近の出来事の記憶、古い記憶の部分的記憶 -生年月日正確	最近の出来事よく覚えられる、古い記憶はほぼ正常 -物忘れは少ない -「青い、ごちそうさま、おはよう」等が出来る	最近の出来事よく覚えられる -一人でも行動できるが判断目を誤に出来る	最近の出来事よく覚えられる -一人でも行動できるが判断目を誤に出来る	
5. 見当識	全くなし	殆どなし -人物の性別困難 -男女の区別は出来る	大まかに年齢、性別と他人は区別出来るが難である -性別の区別は出来ない -自分の年齢を正確に覚えていない	大まかに年齢、性別と他人は区別出来るが難である -性別の区別は出来ない -自分の年齢を正確に覚えていない	年齢が正確か、性別、年齢場所など正確か -「青い、ごちそうさま、おはよう」等が出来る	年齢が正確か、性別、年齢場所など正確か -「青い、ごちそうさま、おはよう」等が出来る	年齢が正確か、性別、年齢場所など正確か -「青い、ごちそうさま、おはよう」等が出来る	
計								

認知症短期集中リハ終了(調査終了)1ヶ月後の調査票(その3)

MMS(Mini-Mental State)		点数
1 見当識(5点)	今年は何年ですか 今日は何月ですか 今日は何日ですか 今の季節は何ですか 今日は何曜日ですか	
2 見当識(5点)	ここは何県ですか ここは何市ですか ここの高齢者は何ですか ここは何層ですか ここは何地方ですか	
3 記名(3点)	枠つりこ、互いに隣接のない5語、たとえば「みかん、電車、サル」として書かせ、直後にその通りに繰り返し書いて書えれば3点とします。その単語を覚えておくようにはいません。	
4 計算(6点)	100から順々に、7を引くことを5回繰り返させる (100 93 86 79 72 65)	
5 想起(3点)	約5分たってから、「さっき書いた三つの言葉を思い出して書いてください」と尋ねます。正しCSつ思い出せれば、3点とします。	
6 命名(2点)	時計を見せ、これは何ですかと聞く 鉛筆を見せ、これは何ですかと聞く	
7 復唱(1点)	「ちりもつもれば、やまとなる」を枠つりこについて、同じように繰り返すように書きます。	
8 三段階口頭命令(3点)	紙切れを机の上に乗べておいてから、枠つり繰り返します 「お手でこの紙を取ってください」 「それを半分に折りたたんでください」 「机の上に置いてください」	
9 書字命令(1点)	「首を閉じてください」とかいてある紙を見せ、その通りを動作でやれるかどうかをみます。	
10 文章(1点)	なにか文章を書いてくださいと指示します。	
11 図形(1点)	下の図を、手本として示して、それをみながら、同じ図を描いてもらいます。	
		
計		

認知症治療薬服用の有無(把握できる範囲で構いません)(それぞれいずれかに○)


- 通所リハ開始前(あり・なし・不明)
 通所リハ期間中(あり・なし・不明)
 調査終了1ヶ月後(あり・なし・不明)

(注) 認知症治療薬とは、アリセプト®、レネニール®、イクセロン®/パッチ/パルス/スリッチ®/パッチ、ノマリー®を指します。

この方は、調査終了1ヶ月後の時点で、どこで生活していらっしゃいますか。(いずれかに○)

- 自宅
 居住系施設(注)
 グループホーム
 特養
 病院
 その他(具体的に:)

(注) 居住系施設とは、ケアハウス・有料老人ホーム・特養老人ホーム・介護老人ホーム・高齢者専用優良賃貸住宅を指します。

 公益社団法人全国老人保健施設協会

〒105-0014

東京都港区芝2-1-28 成旺ビル7階

TEL : 03-3455-4165 FAX : 03-3455-4172